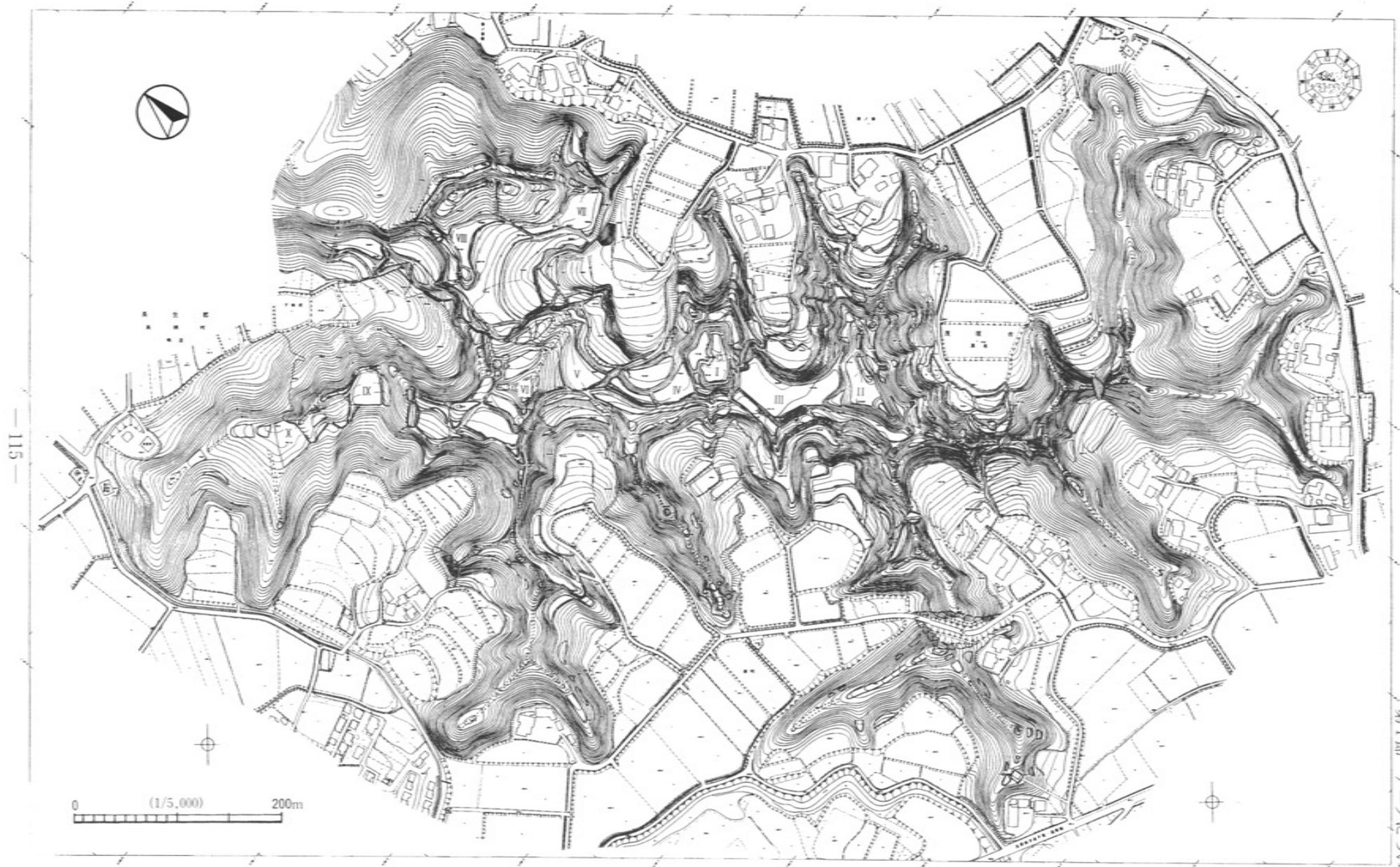
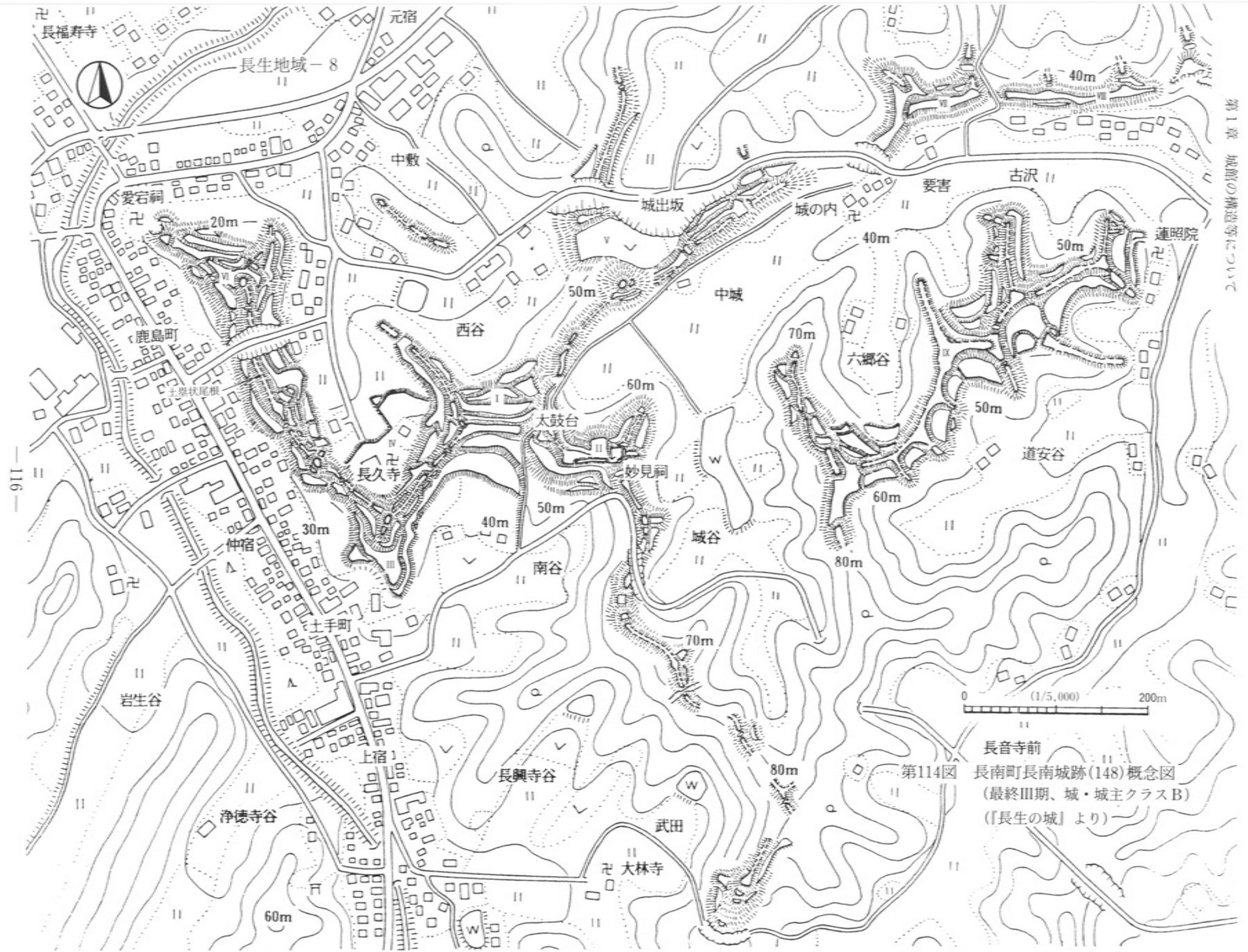


第112図 茂原市本納城跡(141)概念図
(最終III期、城・城主クラスC)
(「長生の城」より)

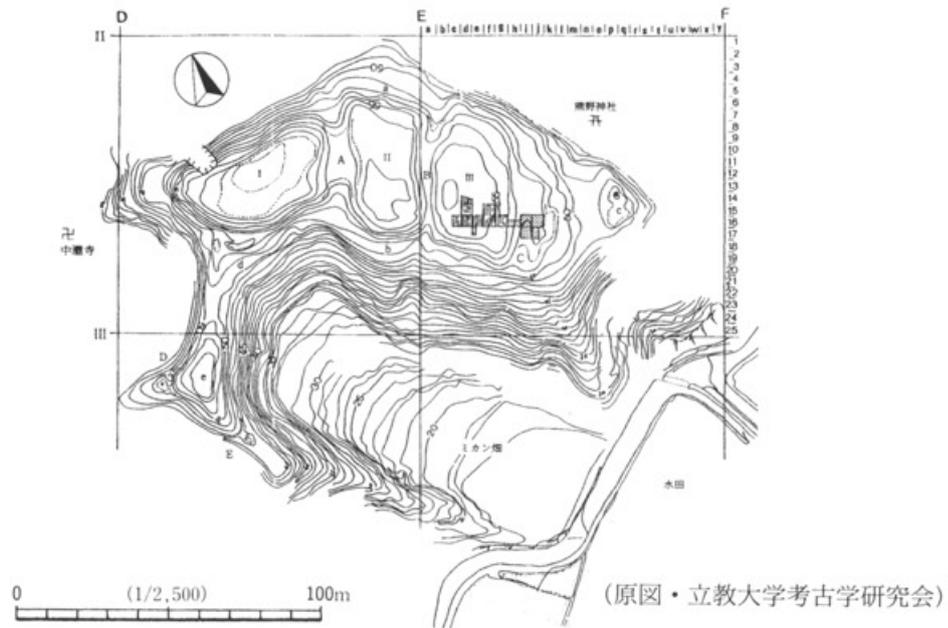


第113図 茂原市真名城跡(142)測量図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスC)
〔千葉県中近世城跡研究調査報告書 第16集〕より

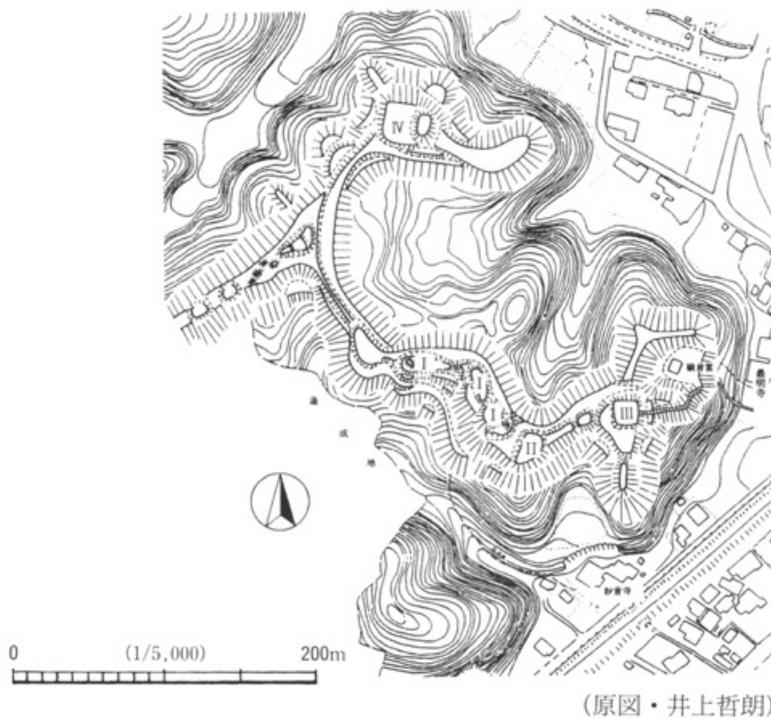


第114図 長南町長南城跡(148)概念図
 (最終Ⅲ期、城・城主クラスB)
 (「長生の城」より)

夷隅地域-1

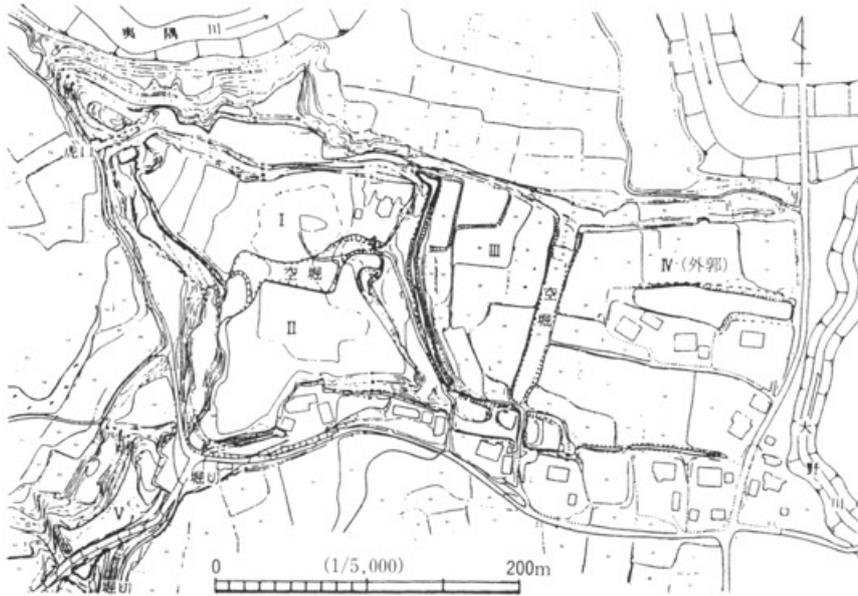


第115図 岬町中滝城跡(164)測量図 (最終II期、城・城主クラスD)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)



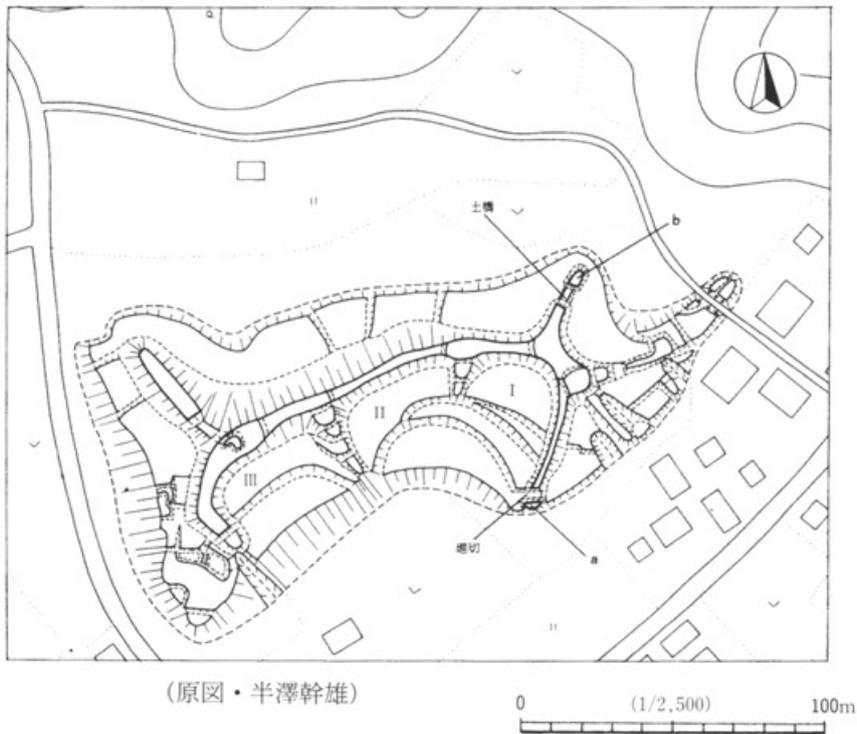
第116図 御宿町最明寺裏城跡(169)概念図 (最終II期、城・城主クラスC)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)

夷隅地域-2



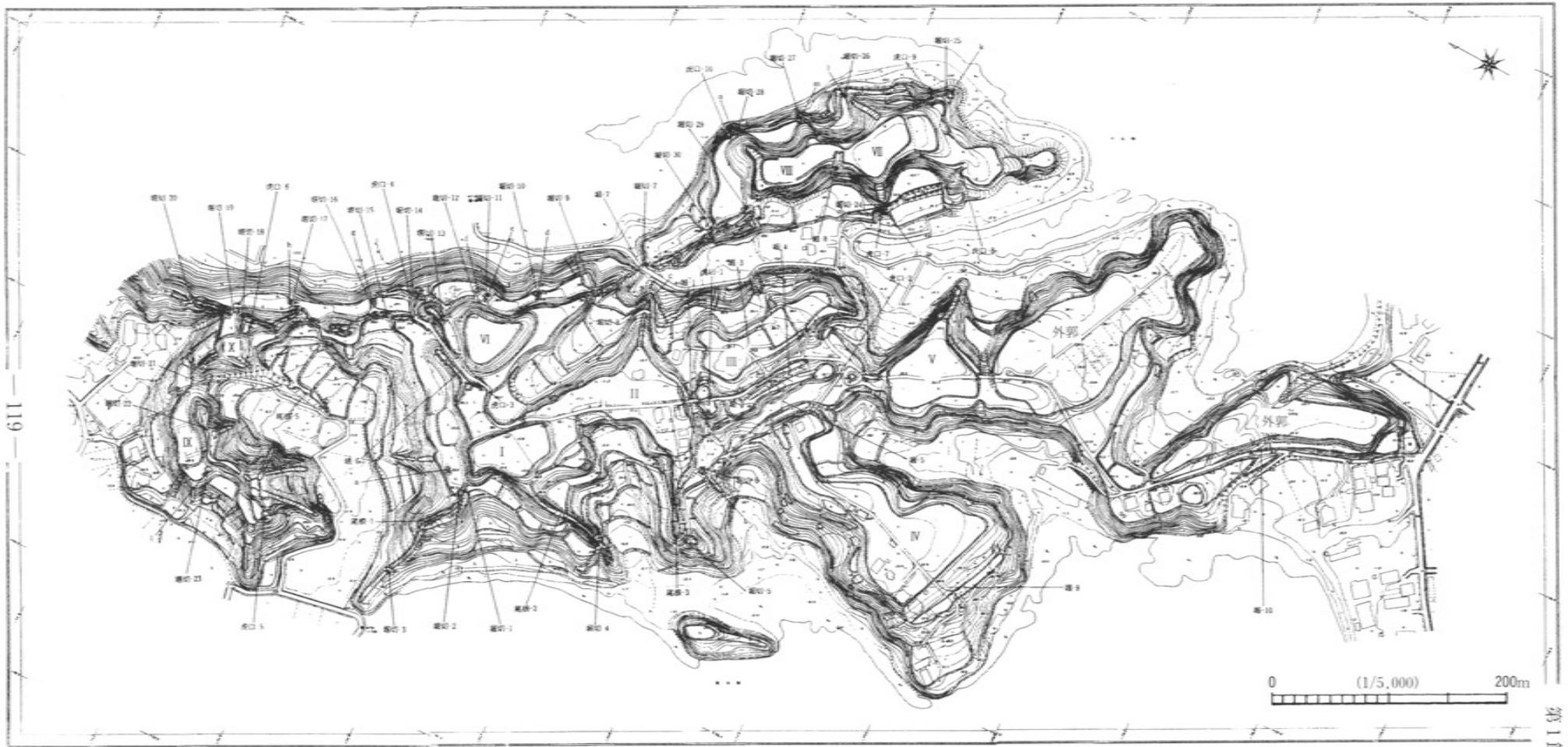
(原図・立教大学考古学研究会)

第117図 夷隅町大野城跡(160)測量図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスD)
(『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)



(原図・半澤幹雄)

第118図 岬町矢竹城跡(163)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスD)
(『千葉県中近世城跡研究調査報告書 第13集』より)



第119図 岬町鶴か城跡(162)概念図 (最終III期、城・城主クラスC)
〔千葉県中近世城跡研究調査報告書 第13集〕より



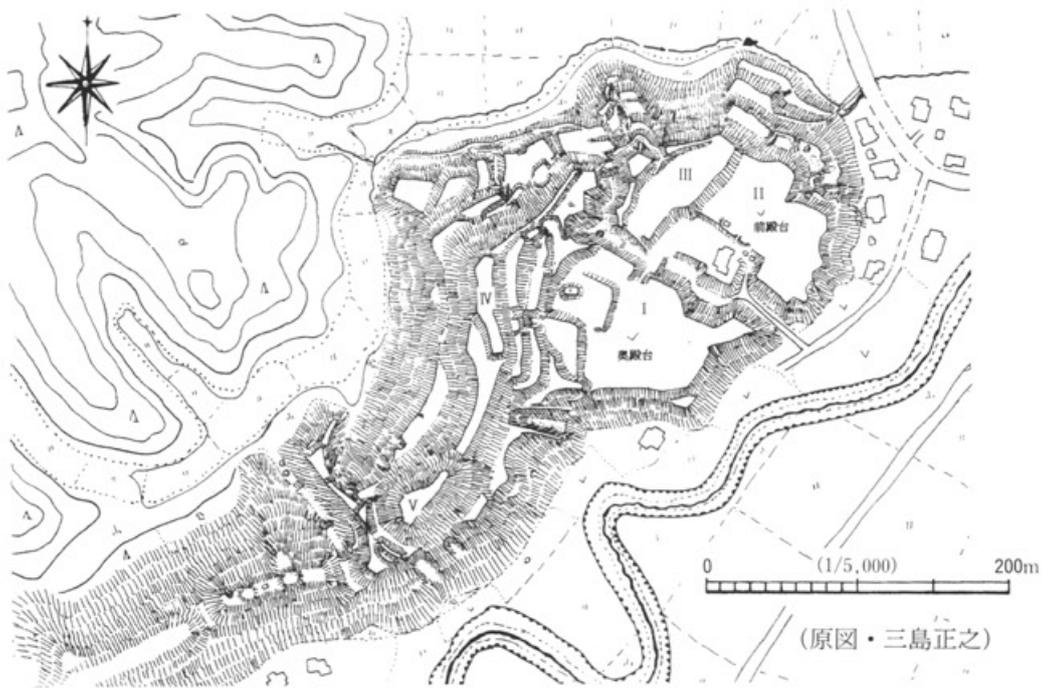
第120図 大原町城谷城跡(166)概念図 (最終III期、城・城主クラスC)

(「千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II」より)



第121図 大原町金山城跡(167)概念図 (最終III期、城・城主クラスC)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)

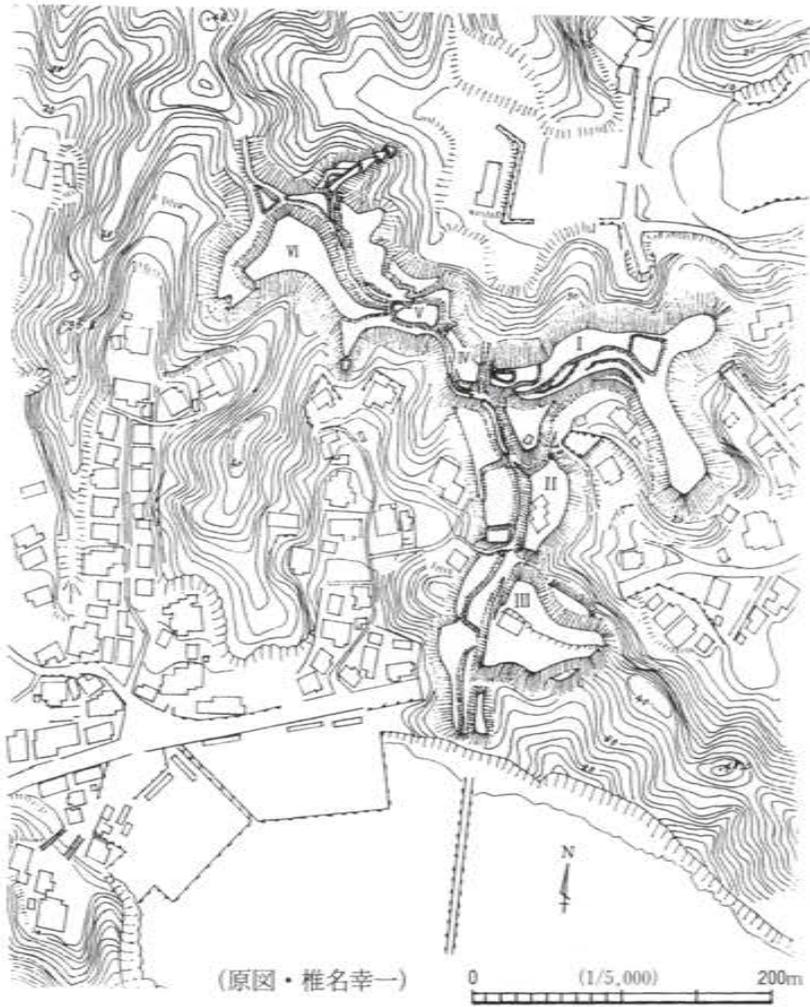
夷隅地域-6



第122図 大原町布施殿台城跡(165)概念図 (最終III期、城・城主クラスC)
(『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)



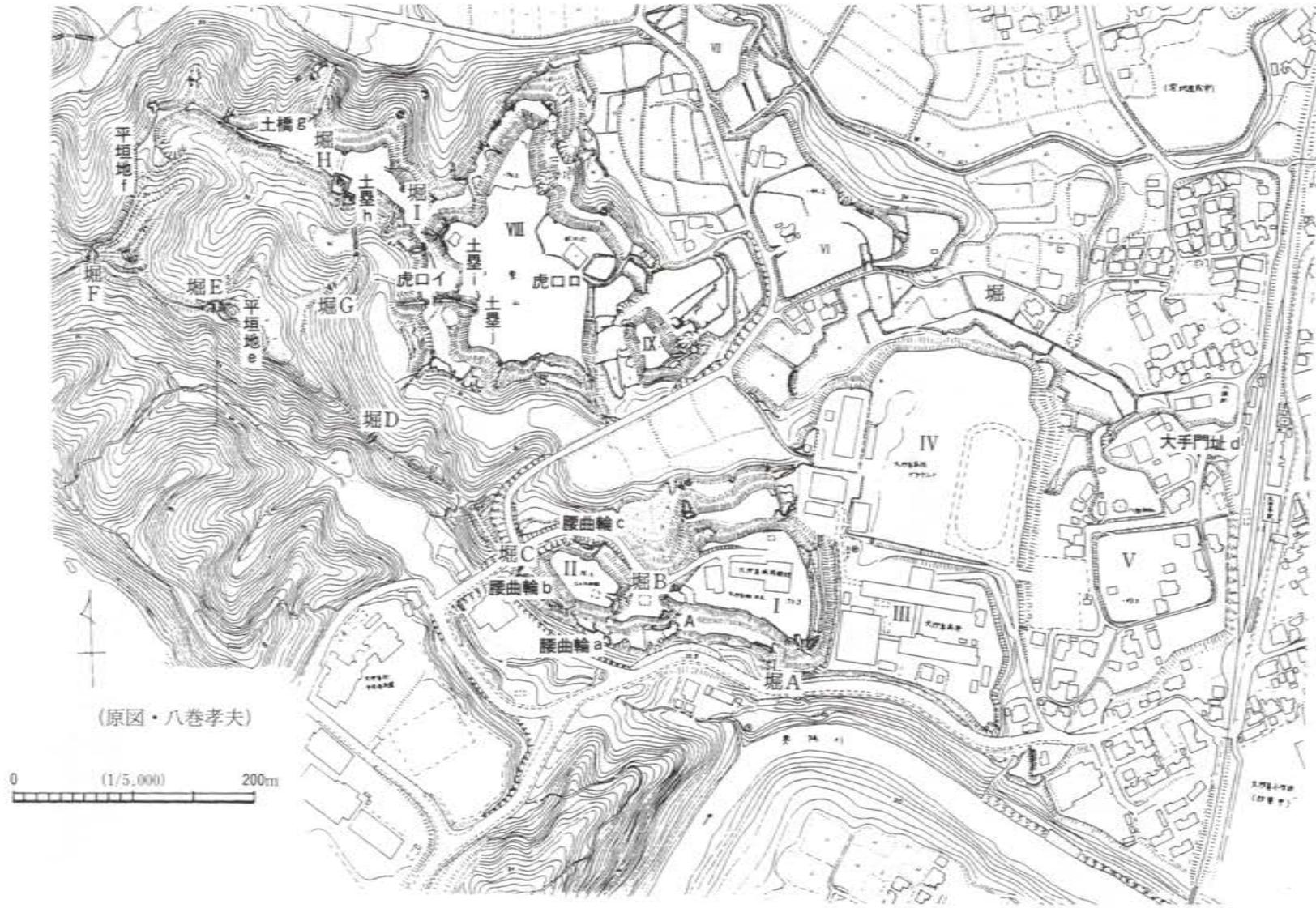
第123図 勝浦市興津城跡(172)概念図 (最終III期、城・城主クラスC)
(『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)



第124図 勝浦市吉尾城跡(170)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスC)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅱ』より)



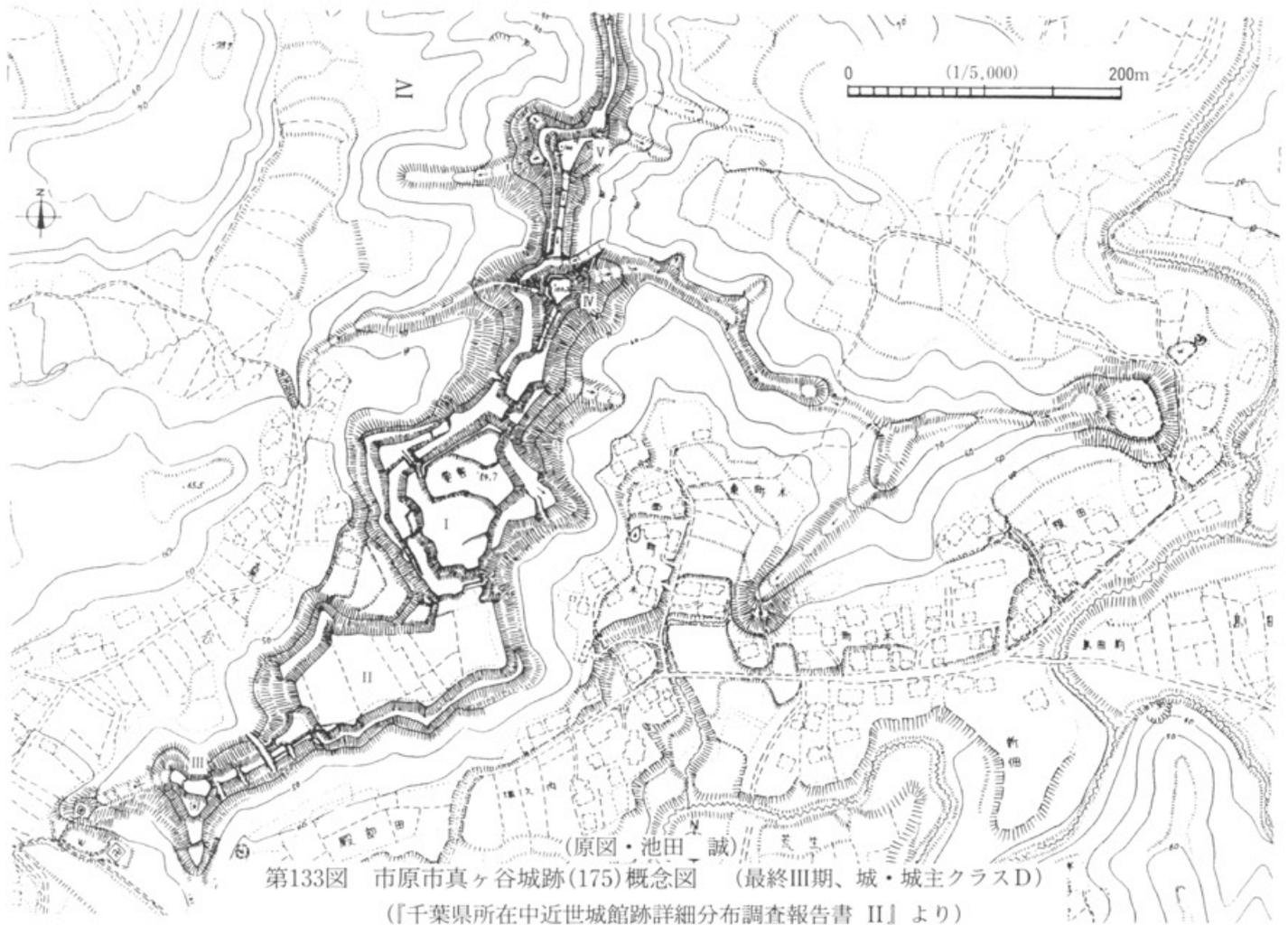
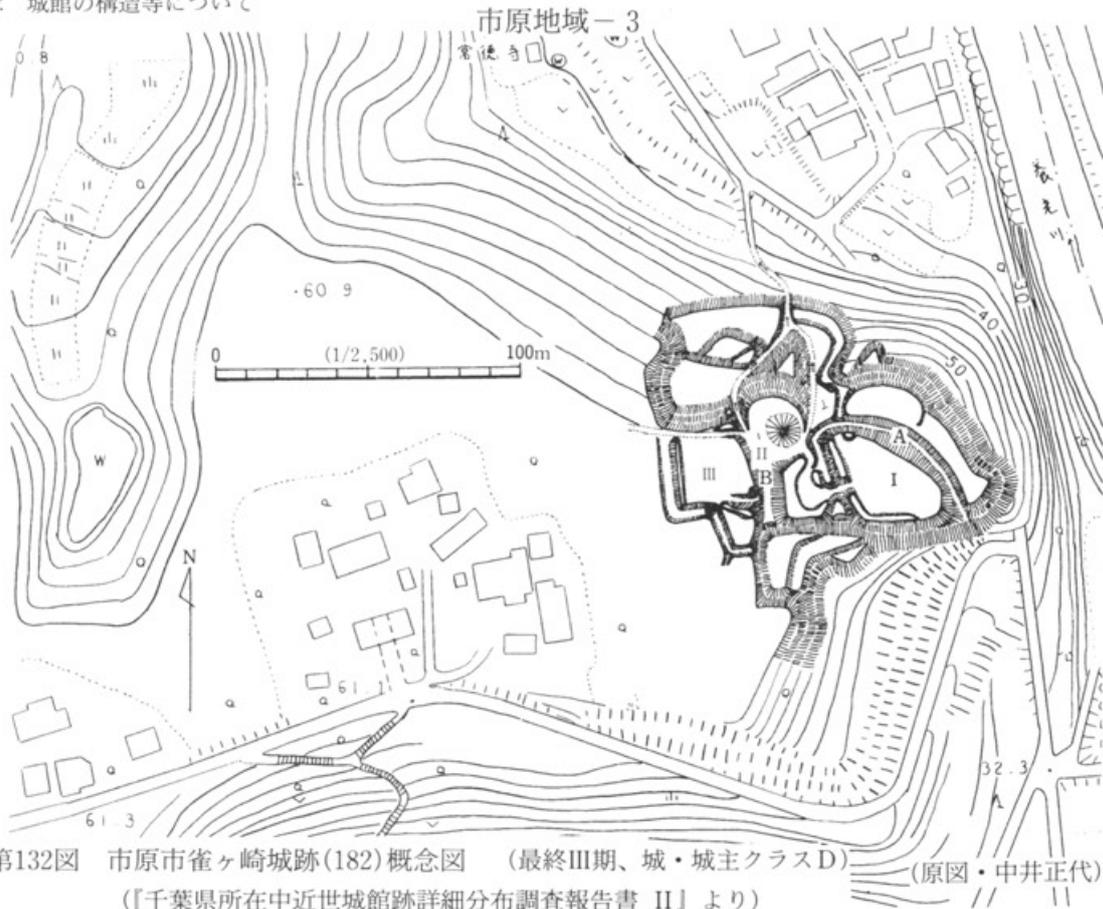
第125図 勝浦市勝浦城跡(171)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスB)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅱ』より)



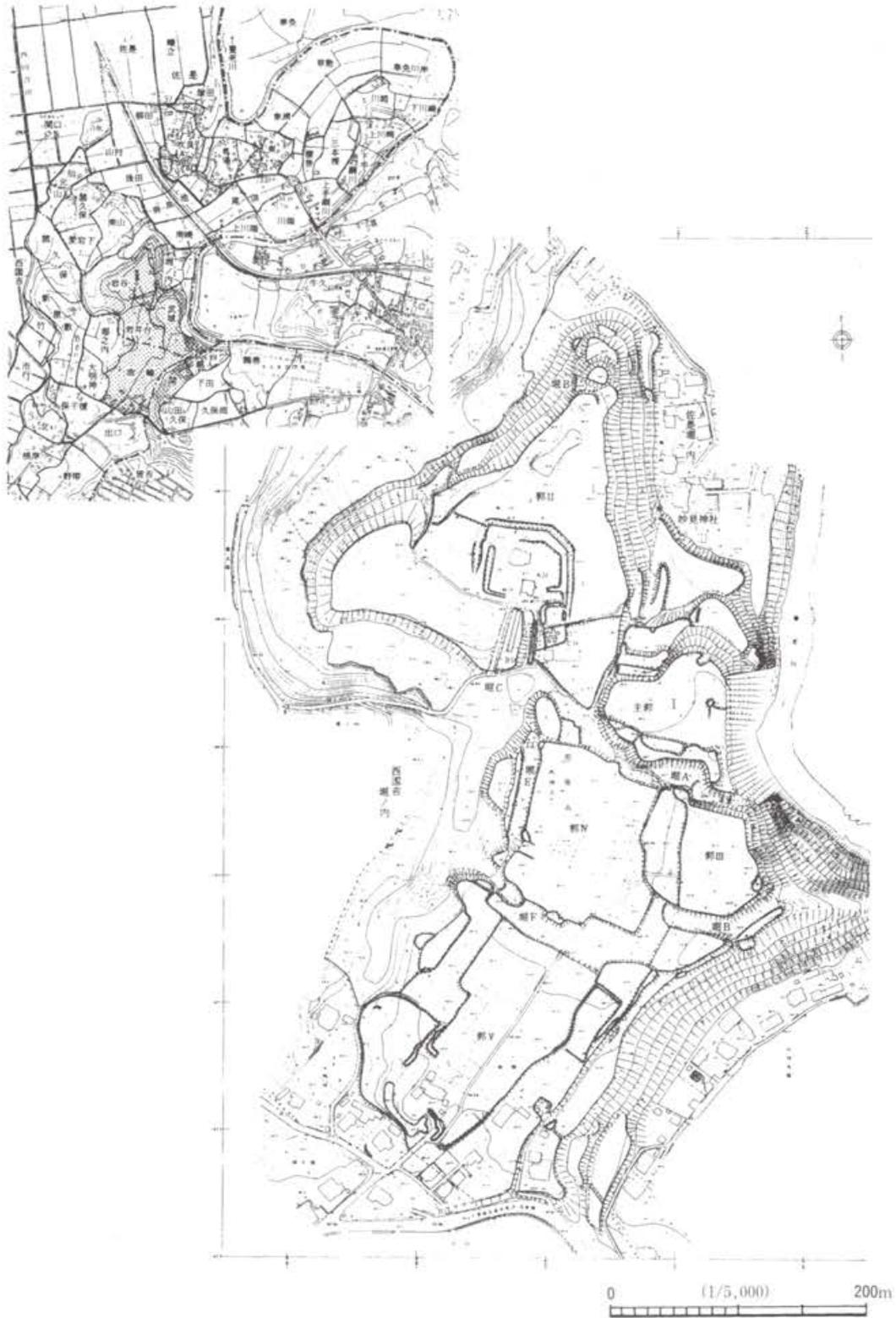
(原図・八巻孝夫)

0 (1/5,000) 200m

第127図 大多喜町大多喜城跡(158)概念図 (最終V期、城・城主クラスB)
(『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)

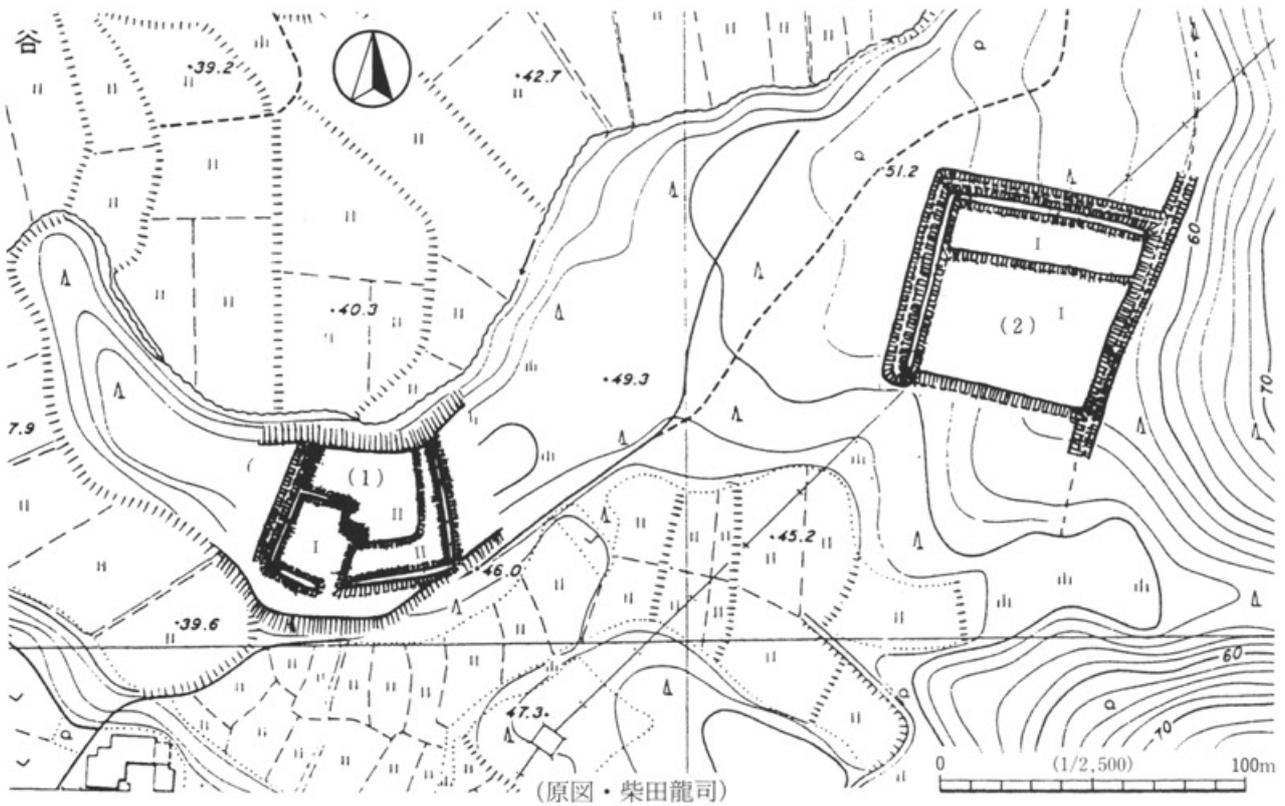


市原地域-5



第136図 市原市佐是城跡(173)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスC)
(『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅱ』より)

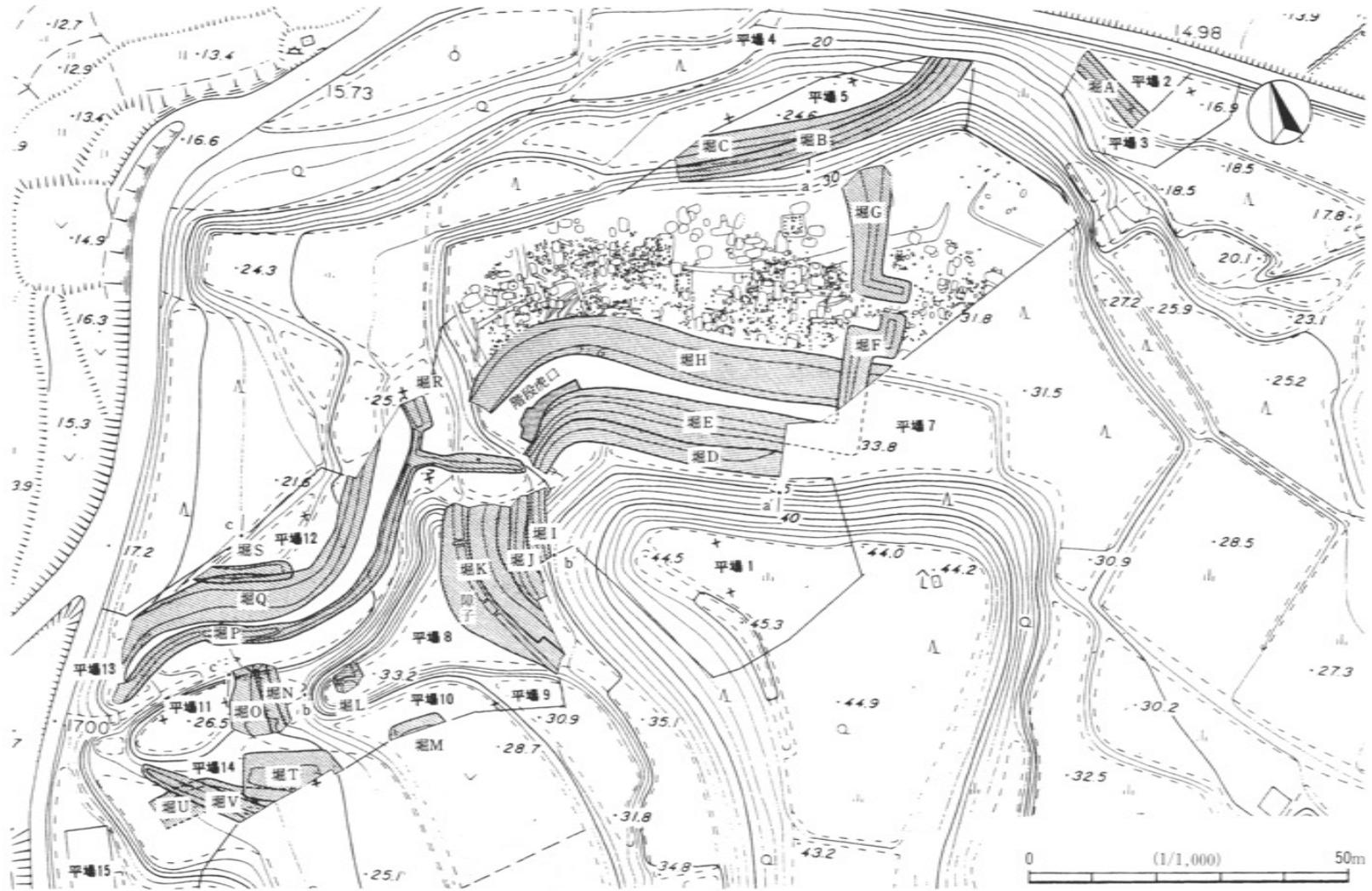
君津地域-1



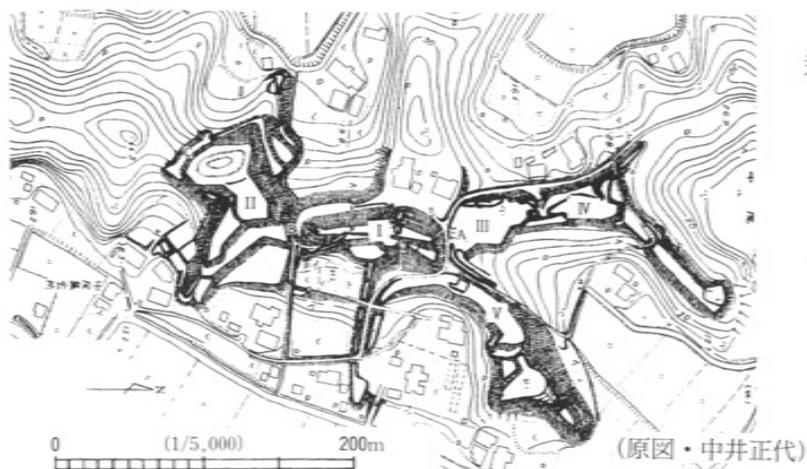
第137図 袖ヶ浦市高谷館群(185,186)概念図 (最終II期、城・城主クラスE)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)



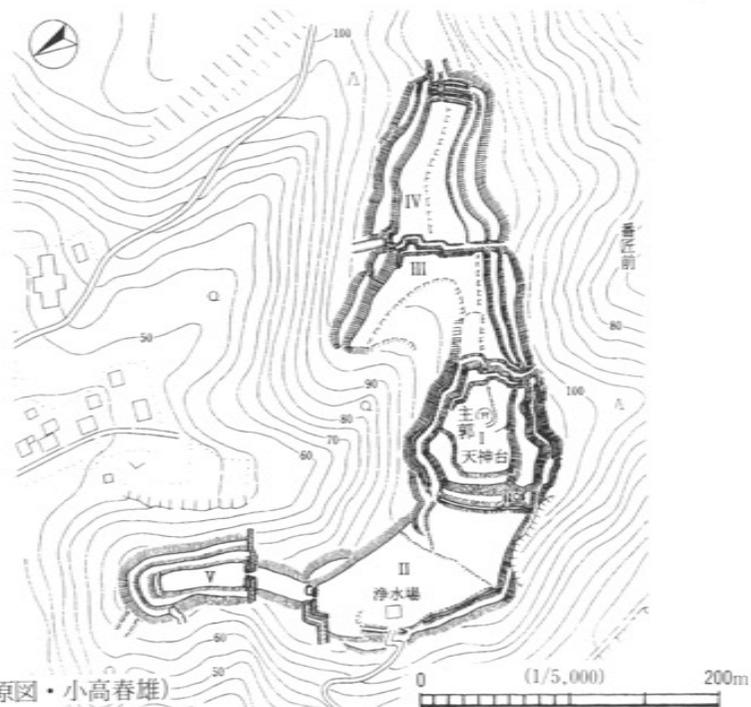
第138図 木更津市三直城跡(197)概念図 (最終III期、城・城主クラスD)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)



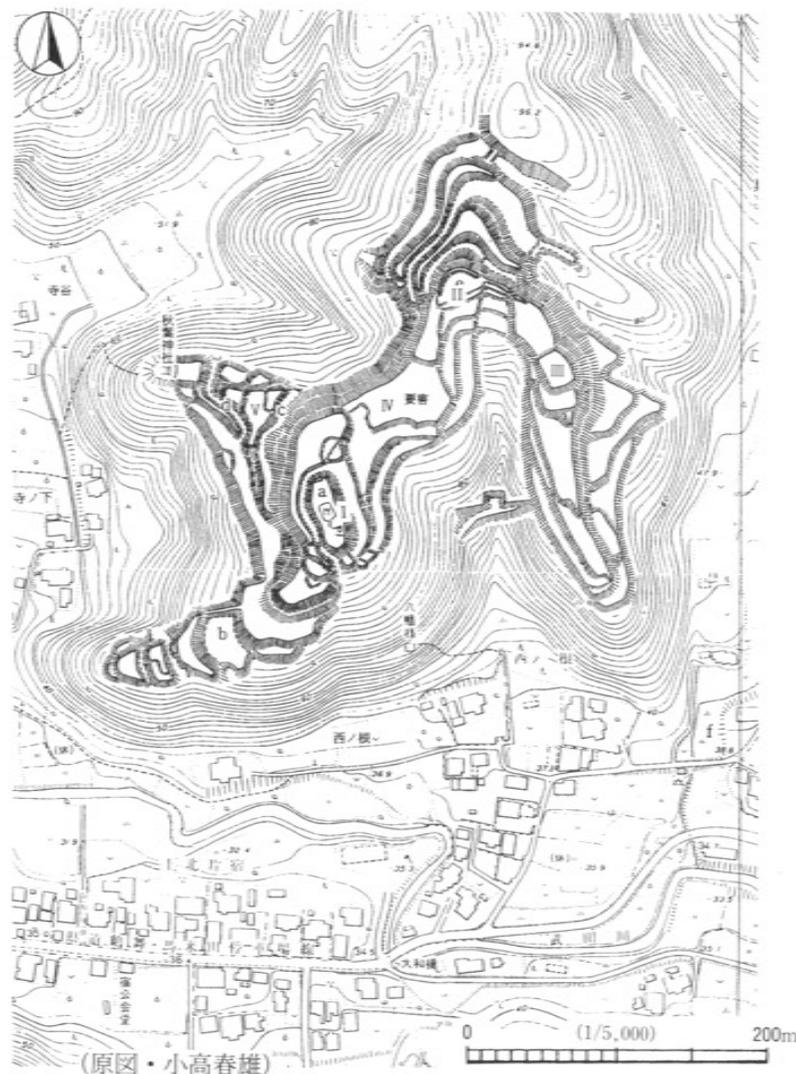
第139図 木更津市笹子城跡発掘調査全測図 (最終Ⅱ期、城・城主クラスC)
 (『研究連絡誌』第37号に加筆)



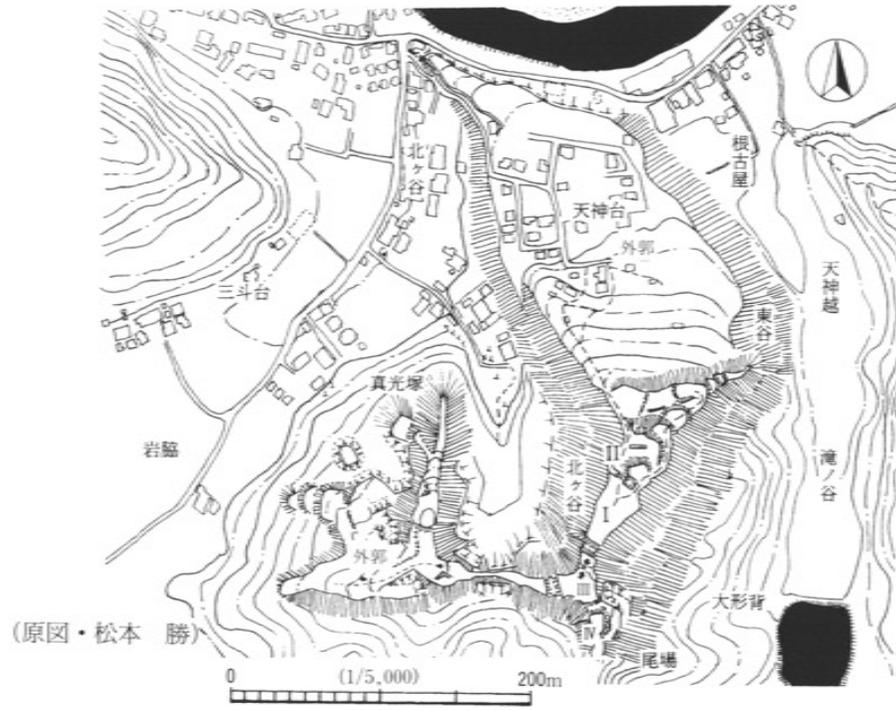
第140図 木更津市中尾城跡(192)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスC)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)



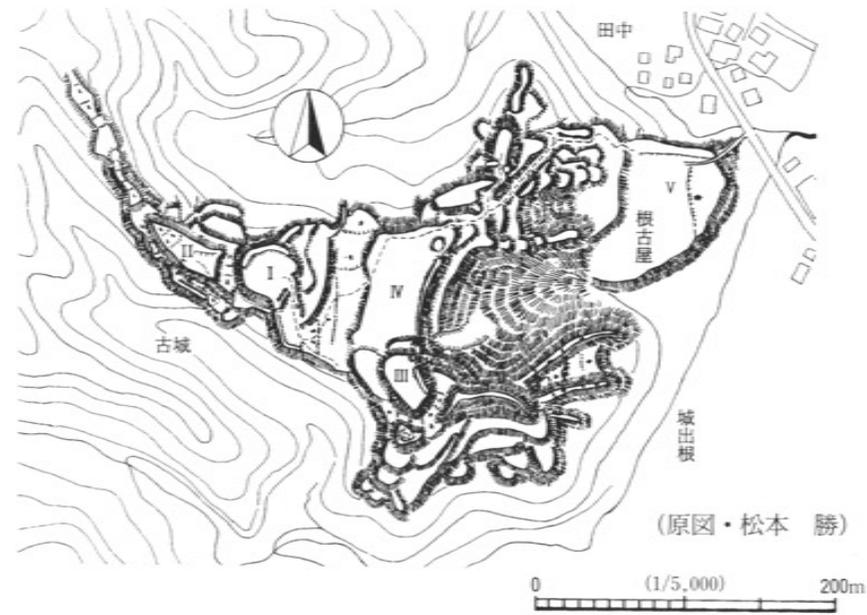
第141図 木更津市天神台城跡(191)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスC)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)



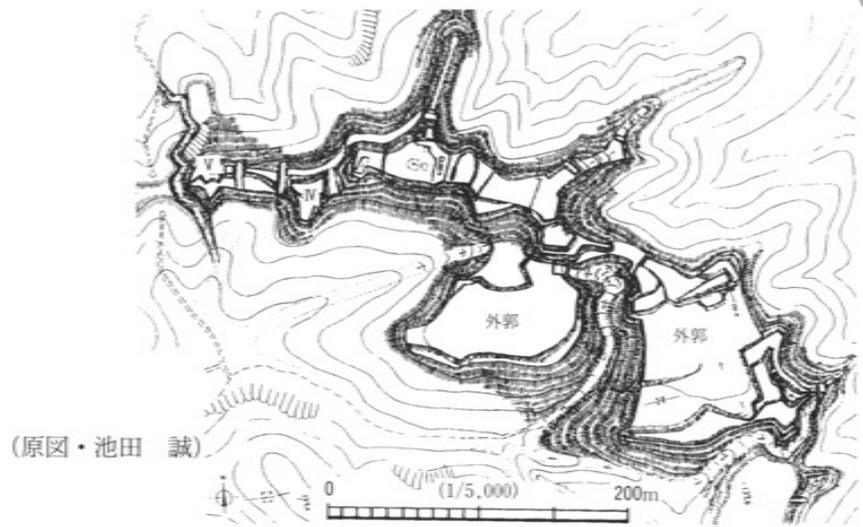
第142図 木更津市要害城跡(190)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスC)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)



第143図 富津市天神山城跡(203)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスC)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)

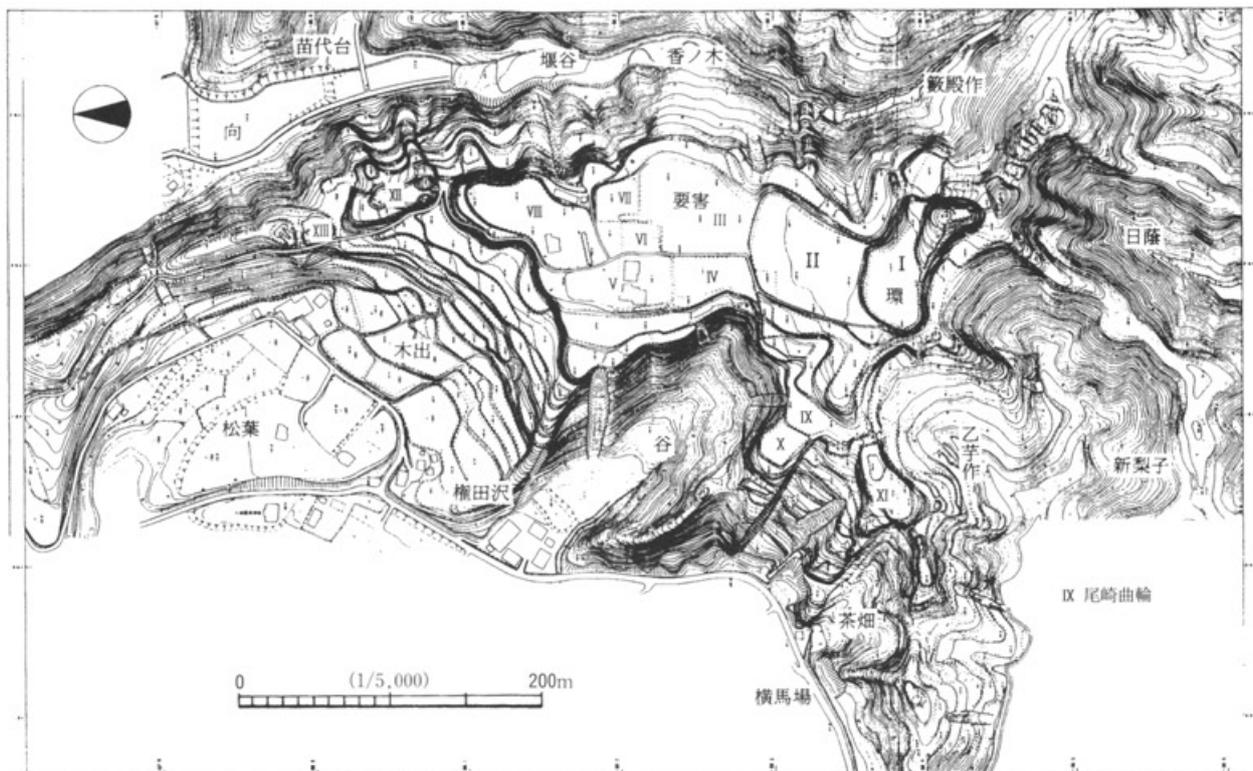


第144図 君津市秋本城(小糸城)跡(195)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスB)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)



第145図 君津市千本城跡(194)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスB)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)

君津地域-5



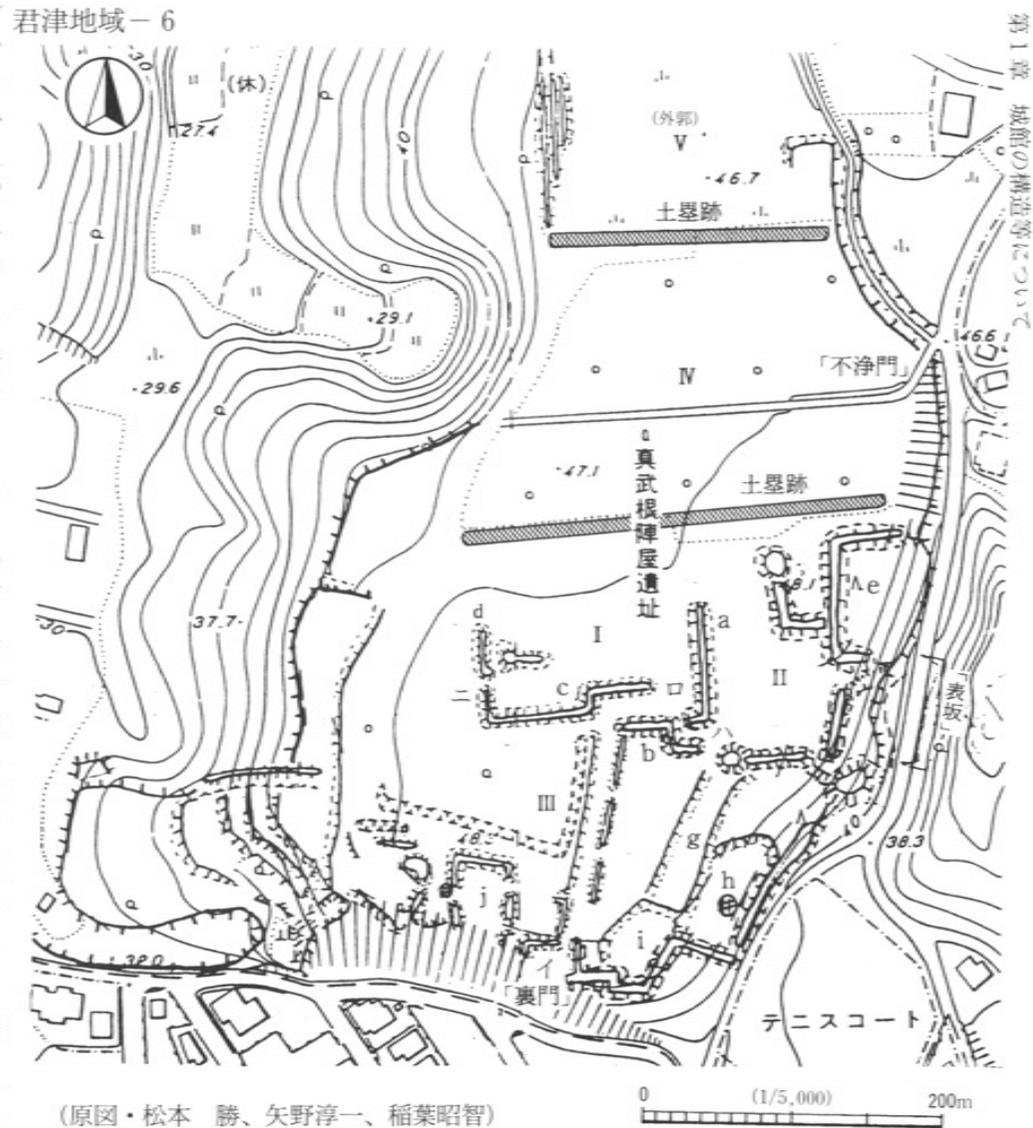
第146図 富津市峰上城跡(200)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスB)
(『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)



第147図 富津市造海城(百首城)跡(201)測量図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスB)
(『千葉県の歴史 資料編 中世1』より)

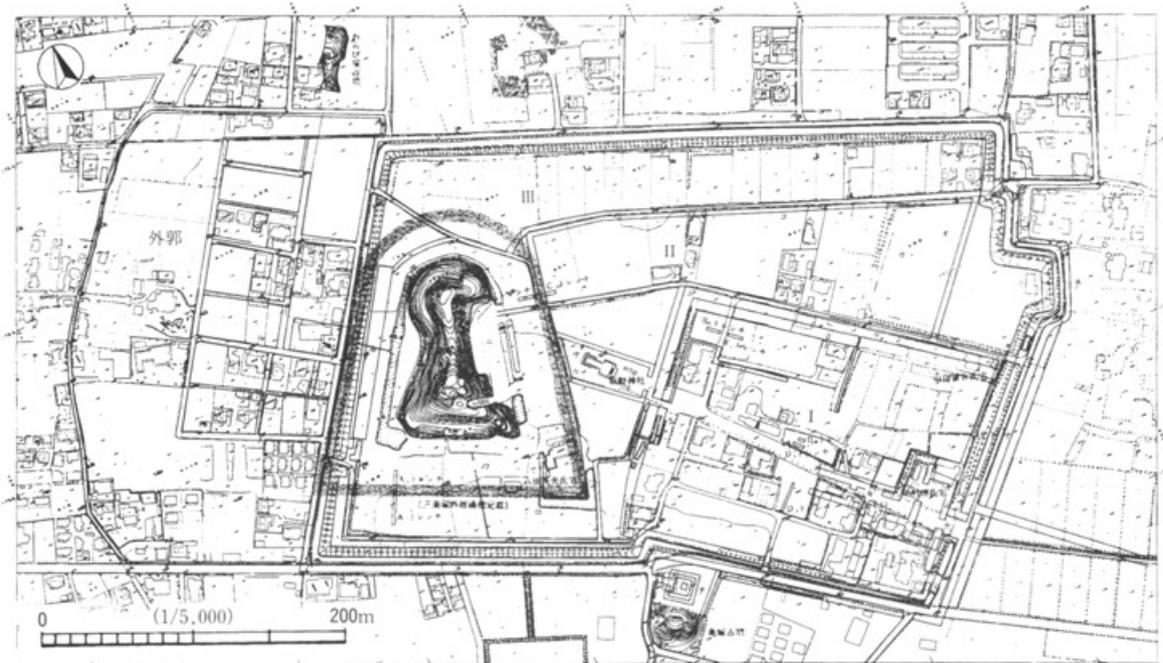


(原図・池田 誠)
 第148図 木更津市真里谷城跡(188)概念図
 (最終Ⅲ期、城・城主クラスB)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)

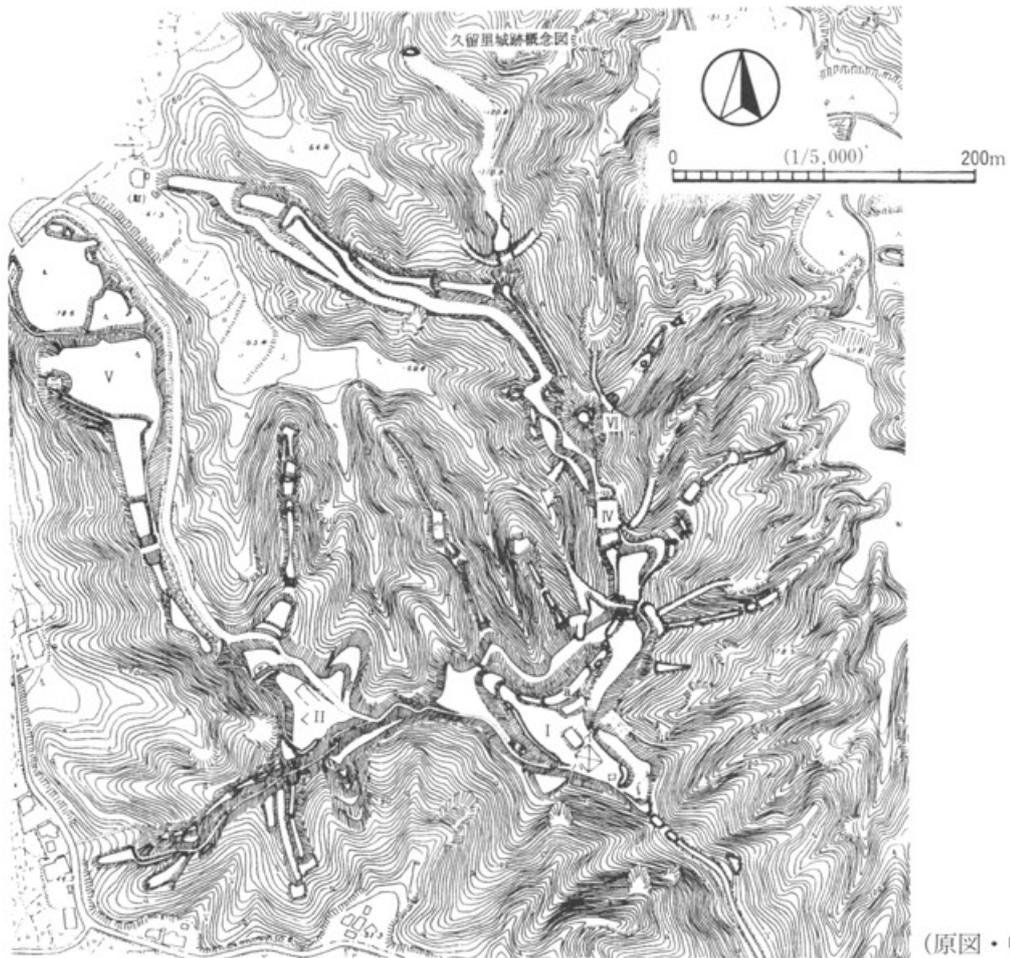


(原図・松本 勝、矢野淳一、稲葉昭智)
 第149図 木更津市真武根陣屋跡(189)概念図 (最終V期、城・城主クラスC)
 (『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)

君津地域-7



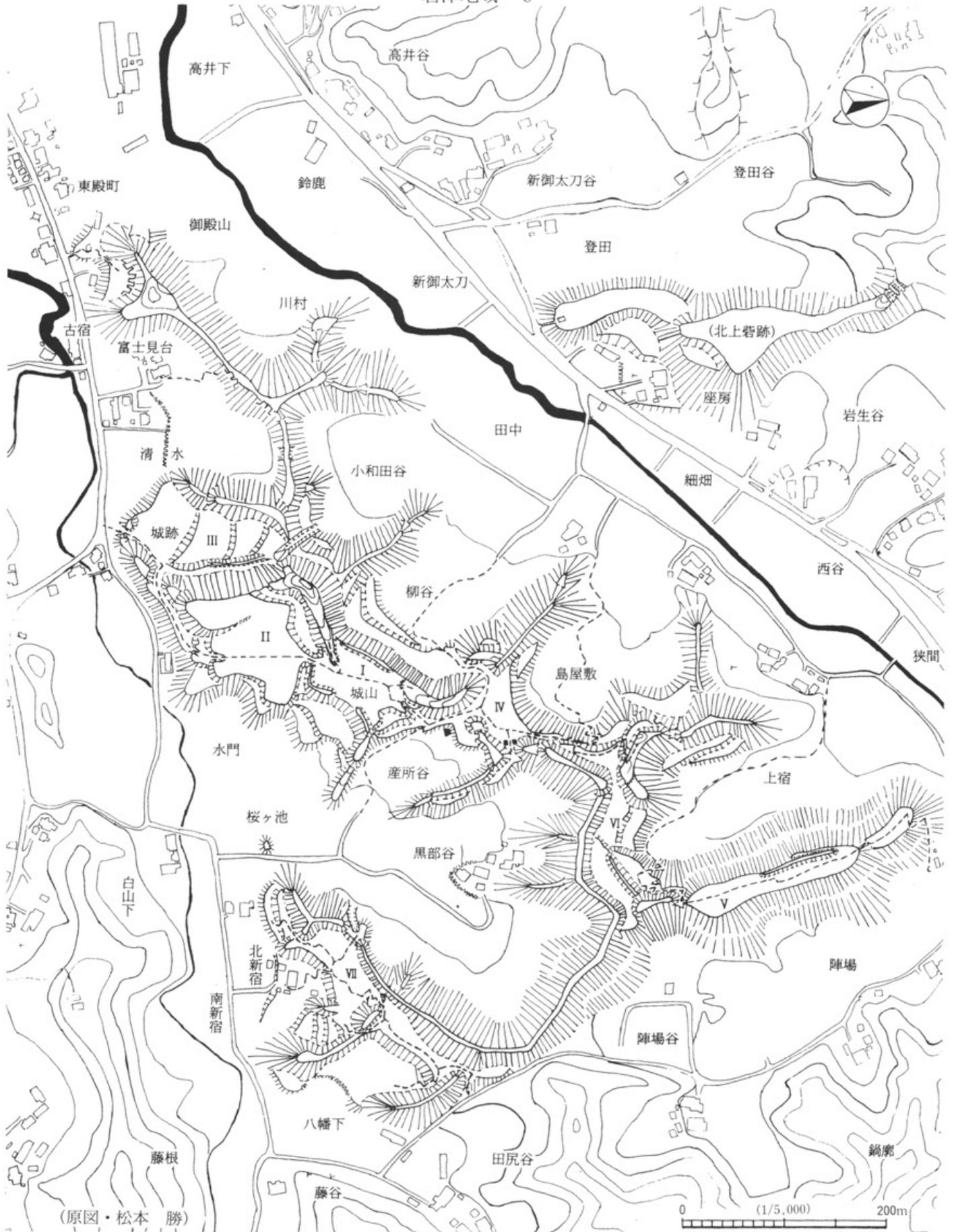
第150図 富津市飯野陣屋跡(198)測量図 (最終V期、城・城主クラスC)
〔千葉県中近世城跡研究調査報告書 第8集〕より)



第151図 君津市久留里城跡(193)概念図 (最終V期、城・城主クラスB)
〔千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II〕より)

(原図・中井正代)

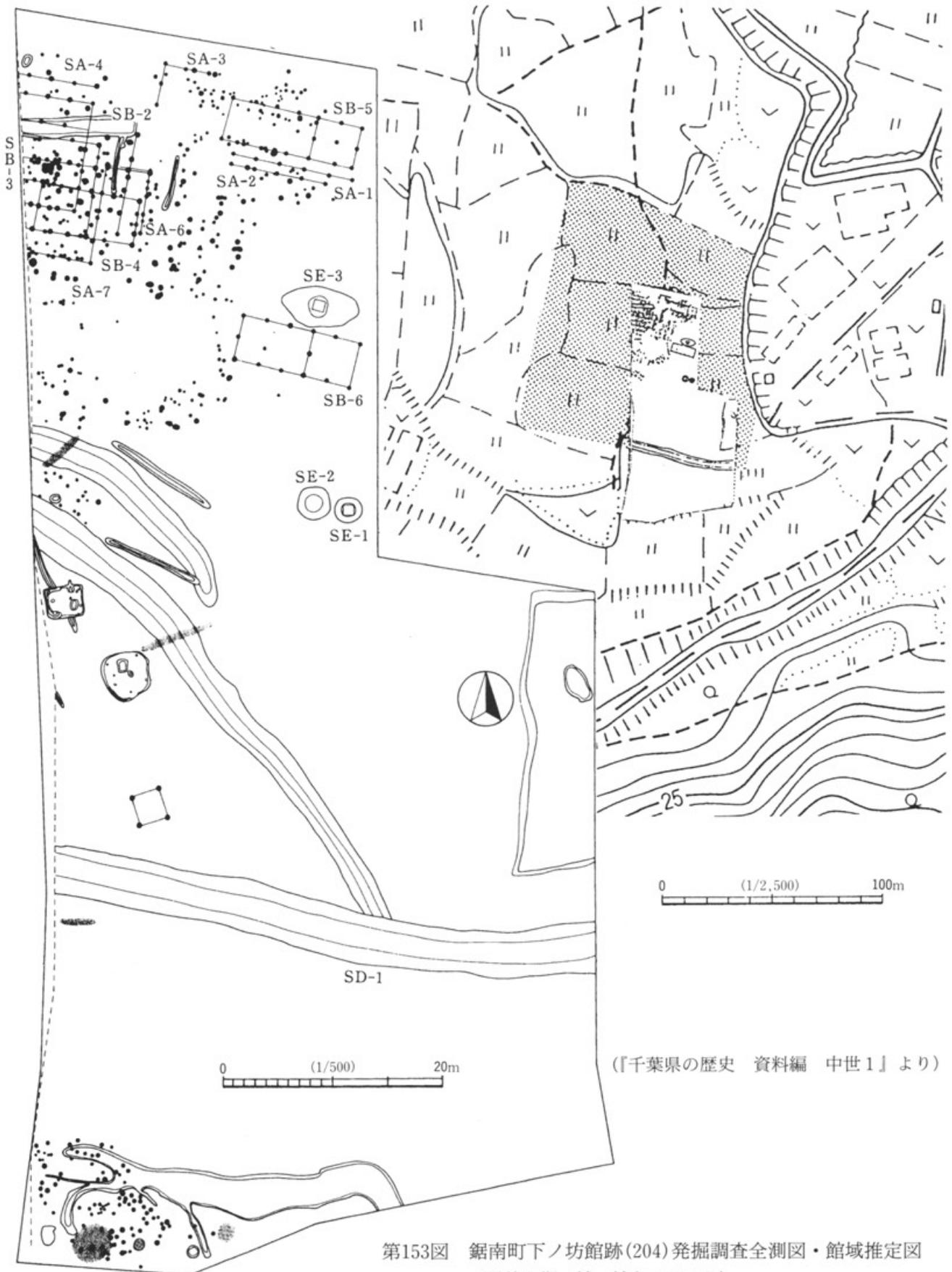
君津地域-8



第152図 富津市佐貫城跡(199)概念図 (最終V期、城・城主クラスB)

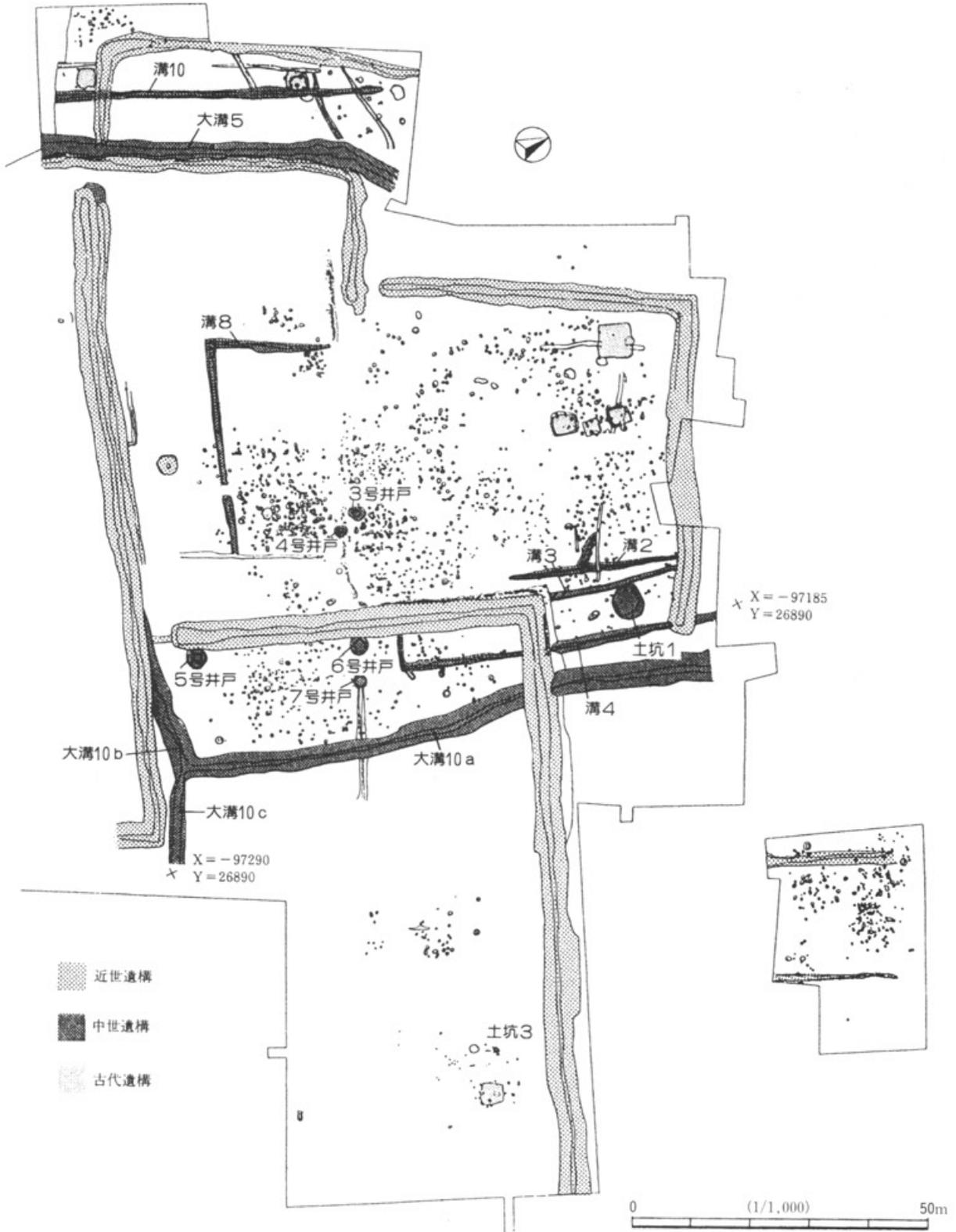
(『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II』より)

安房地域-1



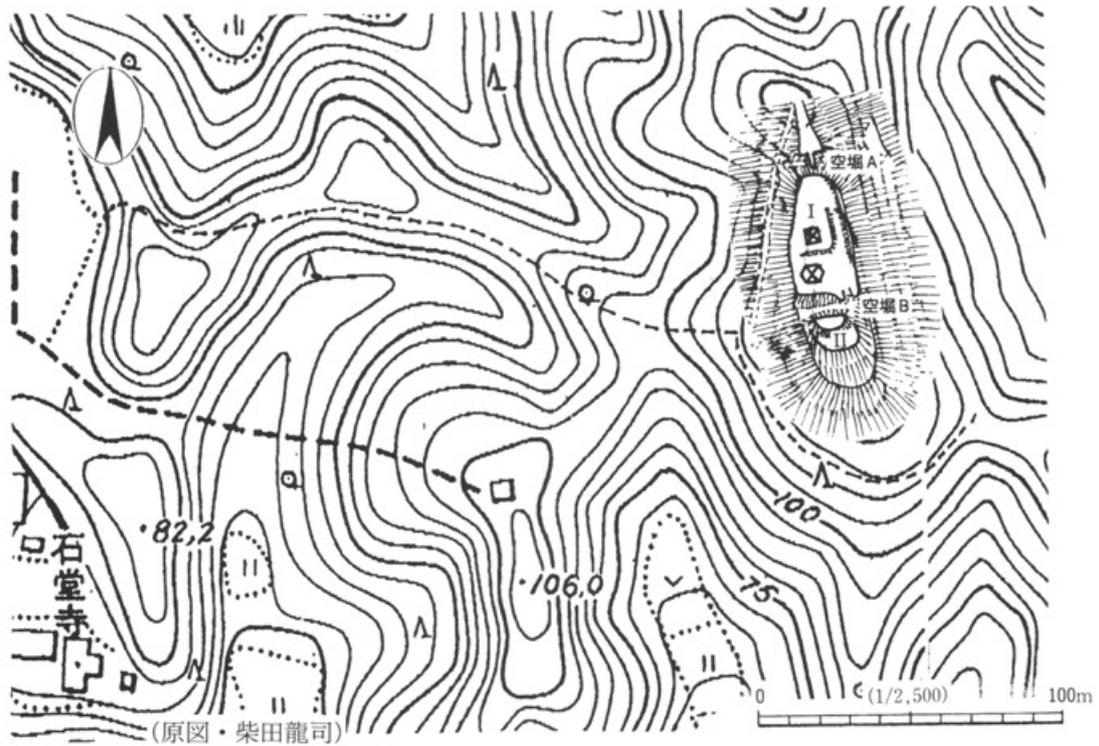
第153図 鋸南町下ノ坊館跡(204)発掘調査全測図・館域推定図
(最終I期、城・城主クラスD)

安房地域-2



第154図 鴨川市西郷氏館跡(209)発掘調査全測図 (最終I期、城・城主クラスD)
(『千葉県歴史資料編 中世1』より)

安房地域-3

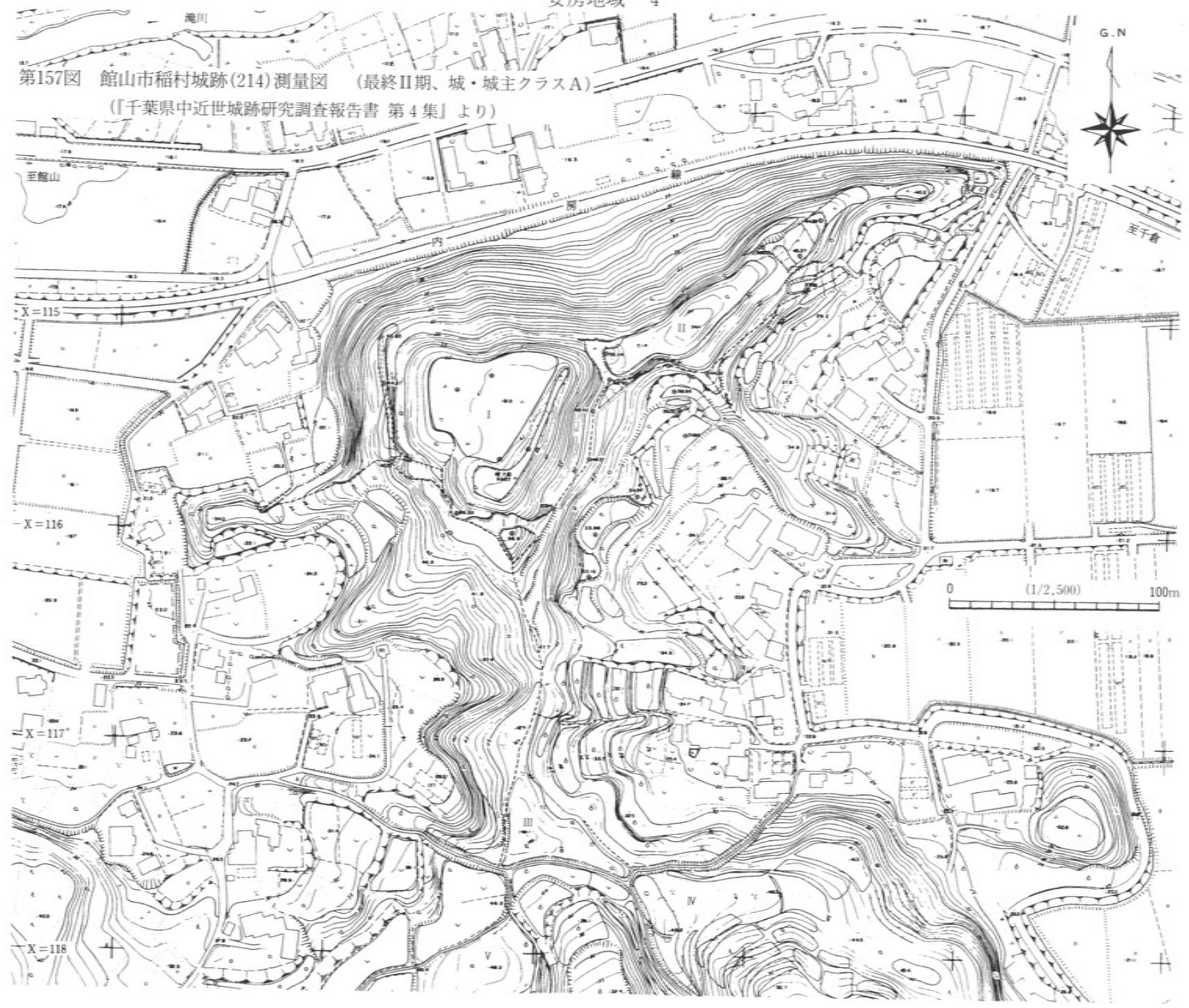


第155図 丸山町石堂城跡(208)概念図 (最終II期、城・城主クラスD)
〔千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II〕より

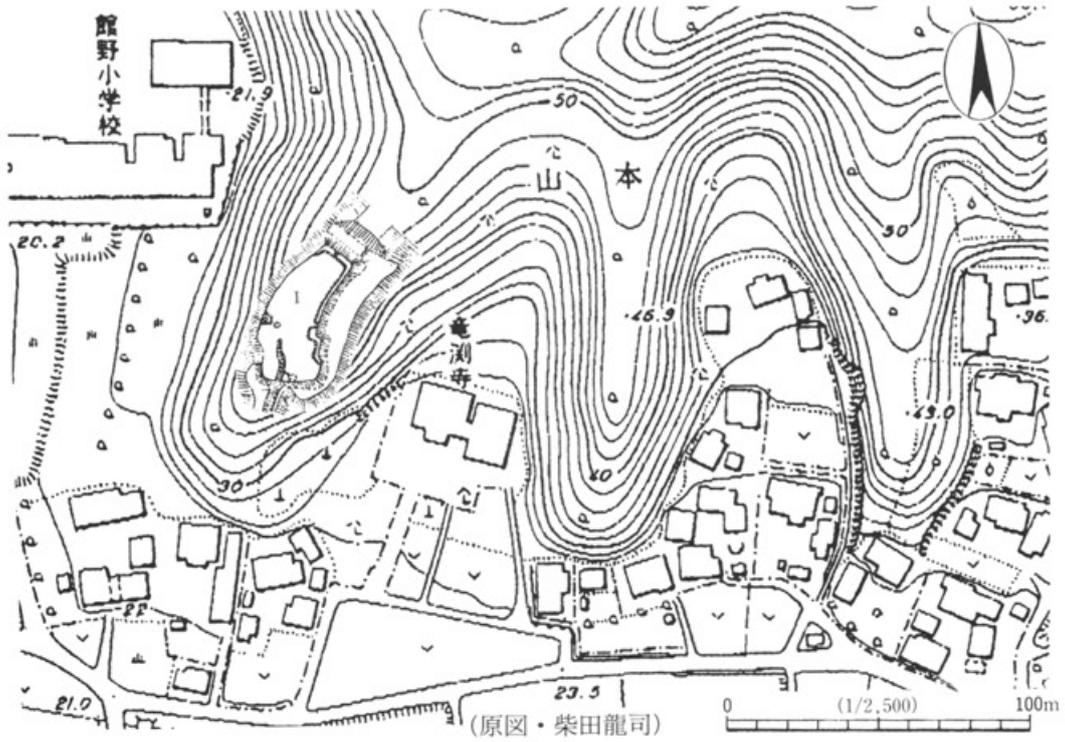


第156図 千倉町宇田城跡(216)概念図 (最終II期、城・城主クラスD)
〔千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 II〕より

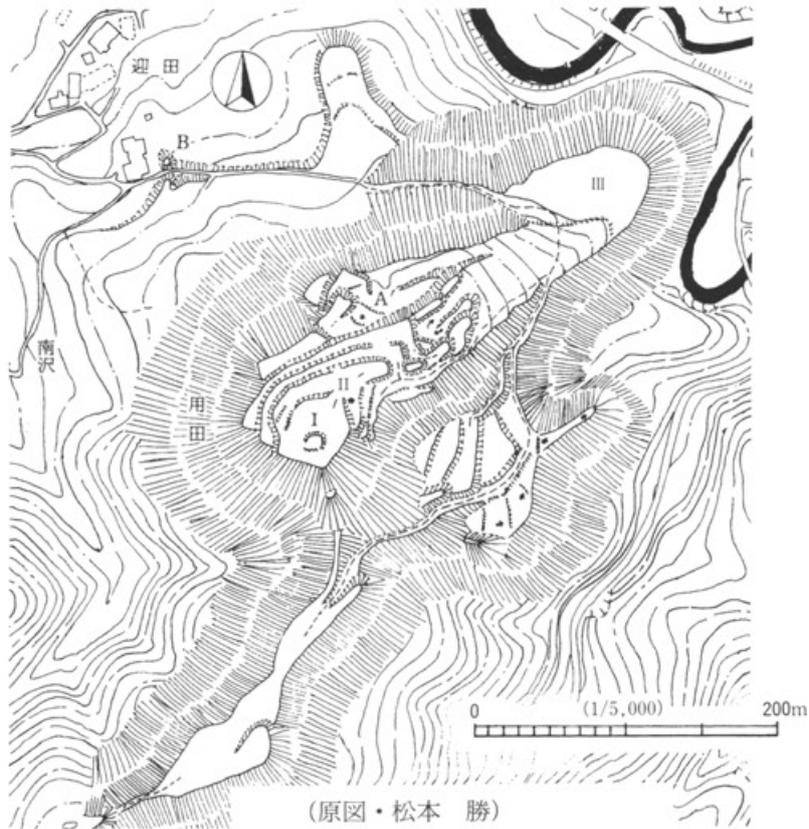
第157図 館山市稲村城跡(214)測量図 (最終II期、城・城主クラスA)
〔千葉県中近世城跡研究調査報告書 第4集〕より



安房地域-5

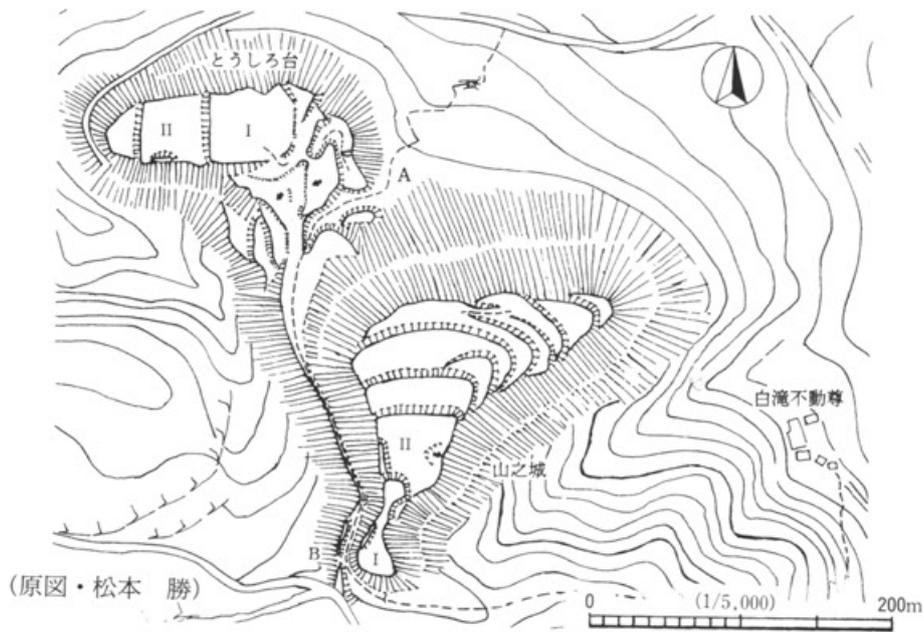


第158図 館山市山本城跡(215)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスE)
〔千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅱ〕より



第159図 富山町富山城跡(205)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスC)
〔千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅱ〕より

安房地域-6



(原図・松本 勝)

第160図 鴨川市山之城城跡(211)・藤四郎台館跡(210)概念図
(最終Ⅲ期、城・城主クラスC) (最終Ⅱ期、城・城主クラスD)
〔千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅱ〕より



(原図・遠山成一)

第161図 富浦町宮本城跡(207)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスB)
〔千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅱ〕より

安房地域-7



第162図 天津小湊町葛ヶ崎城跡(212)概念図 (最終Ⅲ期、城・城主クラスB)
(『葛ヶ崎城跡調査報告書』より)

第2節 地域別特色

本節では、県内の城館跡について、時期や機能や城主等の諸要素は除外したもので、その地域的特色の概要を数量的に把握するために試みたものである。房総は地域によって地形が全く異なり、それによって、領主権力は、如何に地形に即した有効な城館を築くかを意識していたに違いなく、地形を無視した分類・考察等は有効性がないと考えている。

1. 立地について（第4表、第165図）

地形区分については、地質図（第4図）でも明らかではあるが、東飾・印旛・千葉・香取・海匠・山武等県北部地域における占地は殆どが台地上である。丘陵の占地については、香取・山武で若干見られ、市原は台地とほぼ同割合、次いで君津・夷隅の占地は台地の半分以下が丘陵、長生・安房は殆どが丘陵に占地する。また、県南部の市原・君津・安房地域で若干低地の館跡が検出されている。これは、県北部の台地地域の谷が狭い樹枝状を呈するのに比べ、南部では河川が比較的広大な沖積地を形成していること、沖積地上にも古代遺跡が確認されており、その調査に伴って検出されたことなどに起因するであろう。

立地内の位置については、先端部が東飾・印旛・香取・海匠・市原地域に多く、千葉・安房が内部とほぼ同割合、山武・長生・夷隅・君津等房総中央部が先端から奥（山全域）が先端部とほぼ同割合である。千葉・安房地域の台地または丘陵内部の城館跡については、南屋敷遺跡（第44図）・池ノ尻館跡（第21図）等、千葉・印旛地域の発掘調査例から、15世紀前半までの防御をあまり意識しない館跡の可能性があろう。また、山全体に占地するものが多い地域は、井田・酒井・武田・土岐・正木氏等の国人領主権力の大きさや築城意識も考えられよう。

立地する比高については、まさに地形に即したものであるが、南に行くほど高くなる傾向が明白である。

2. 曲輪数について（第4表、第166図）

主要郭数については、大差はないが、夷隅・君津地域が若干多い。しかし、腰曲輪数については、地域により大きな差があり、夷隅地域が50以上、君津・安房地域が40～50、長生地域が40余りでこの4地域が突出している。次いで山武・市原地域が20余り、香取・海匠地域が15前後、東飾・印旛・千葉地域が10以下である。これらは、やはり台地地形と丘陵地形の占地の差によるものが大きい、長生・夷隅・君津・安房地域の曲輪数の多さは、立地の項で述べた様に、丘陵斜面に無数の平場を造成する領主の築城意識によるものもあろう。

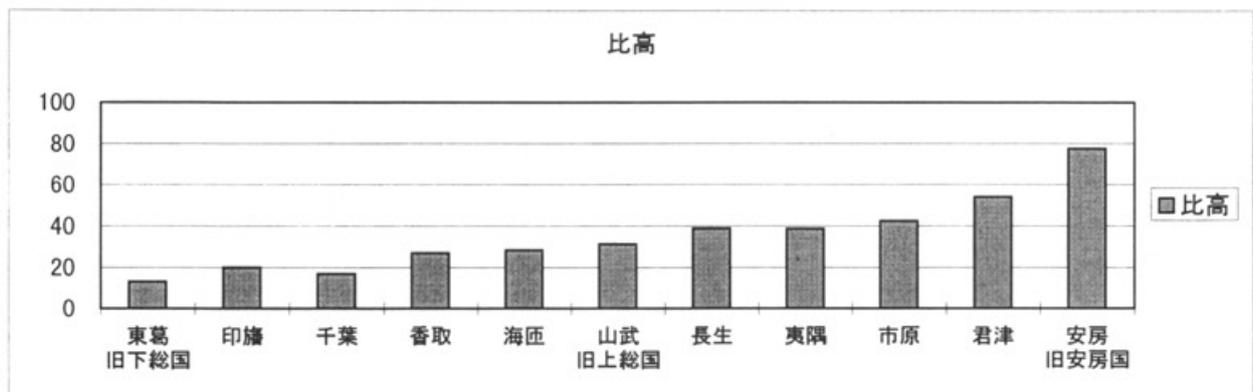
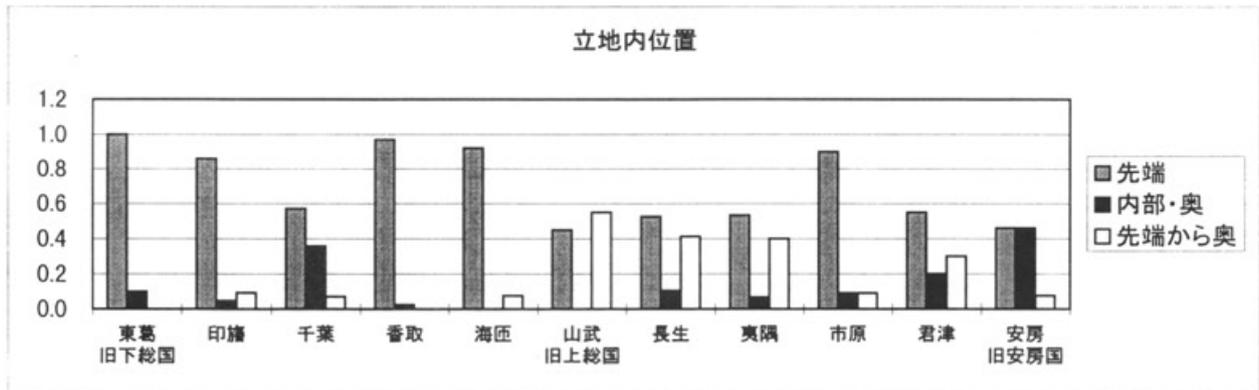
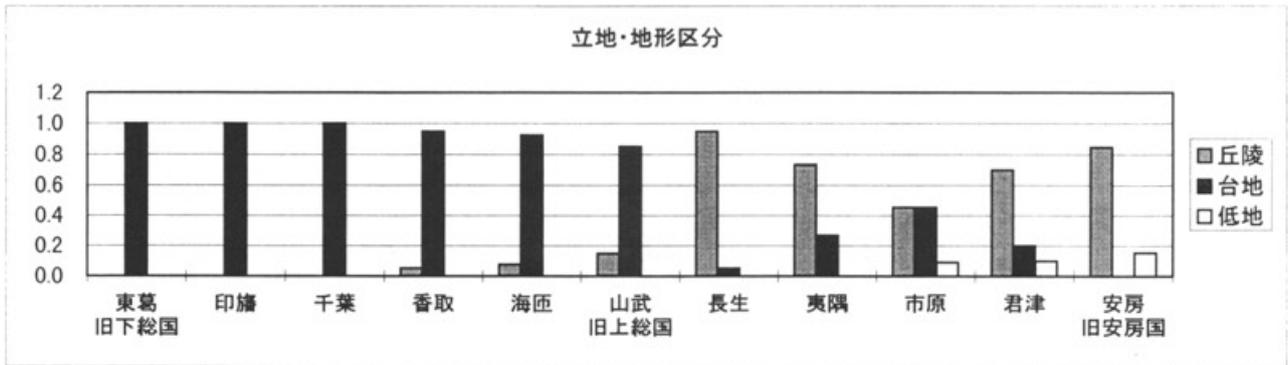
3. 曲輪面積について（第4表、第166図）

主要郭の面積については大差ないが、広い台地地形を有する東飾地域がやや広い。腰曲輪については、前項の曲輪数と同様、夷隅・君津地域の面積がやや広い。外郭部については、千葉地域が突出し、次いで東飾地域が顕著である。これは抽出したデータにもよるが、東飾地域は、古くからの開発によって破壊されて概念図がない城館跡も多く、小金城（第19図）等の広域な面積の城館跡が平均面積を上げていること、千葉地域については、生実城（第50図）・小弓城（第49図）が平均面積をあげていることがある。しかし、基本的には台地上の城郭が広い曲輪を確保し易いことが要因であろう。長生・安房地域はデータ上、外郭

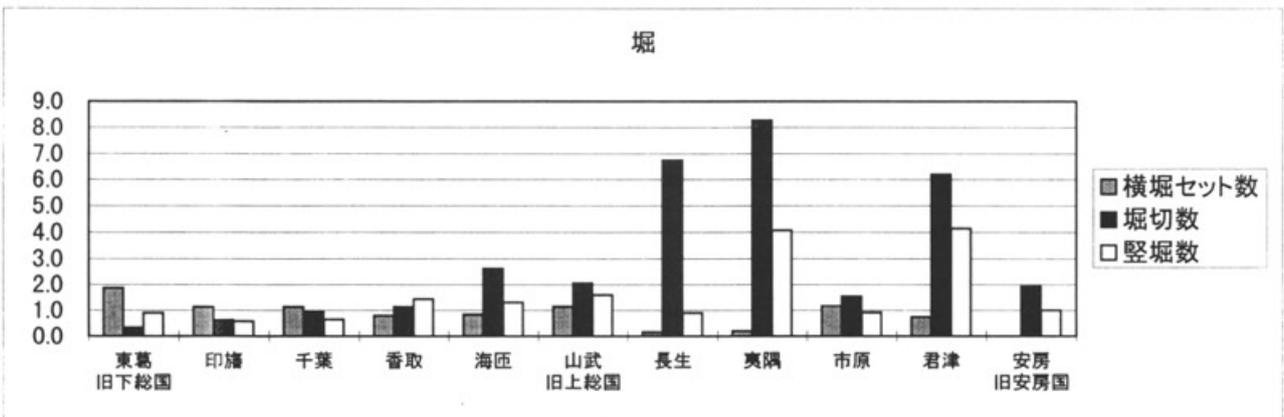
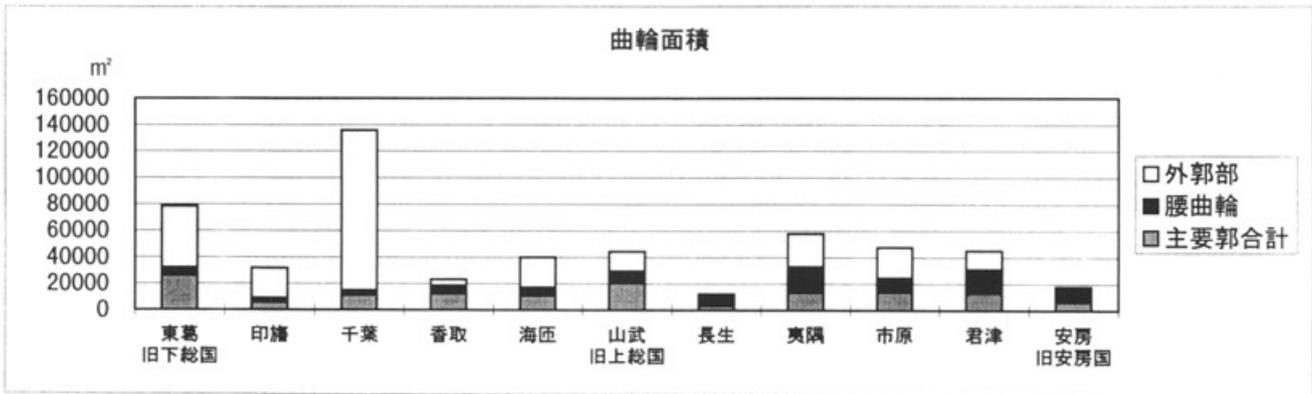
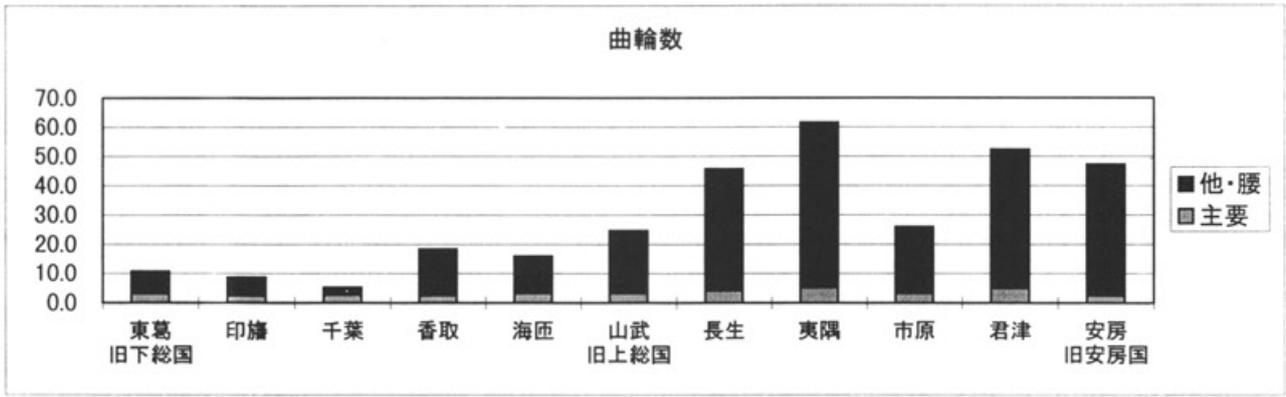
第4表 千葉県内中近世城館跡構造等 地域別データ集計

城・城主クラス：A：一国以上の領域を持つ戦国大名（千葉宗家・里見氏）の本城/B：一部～数郡の領域を持つ、国人領主層・戦国大名被官（原・大須賀・国分・酒井・正木・武田等）の本城＝戦国大名の支城/C：現市町村規模の領域を持つ、国人領主重臣層の本城/D：数村規模の領域を持つ在地領主層の城/E：一村程度の領域を持つ小領主層・土層農民層の城

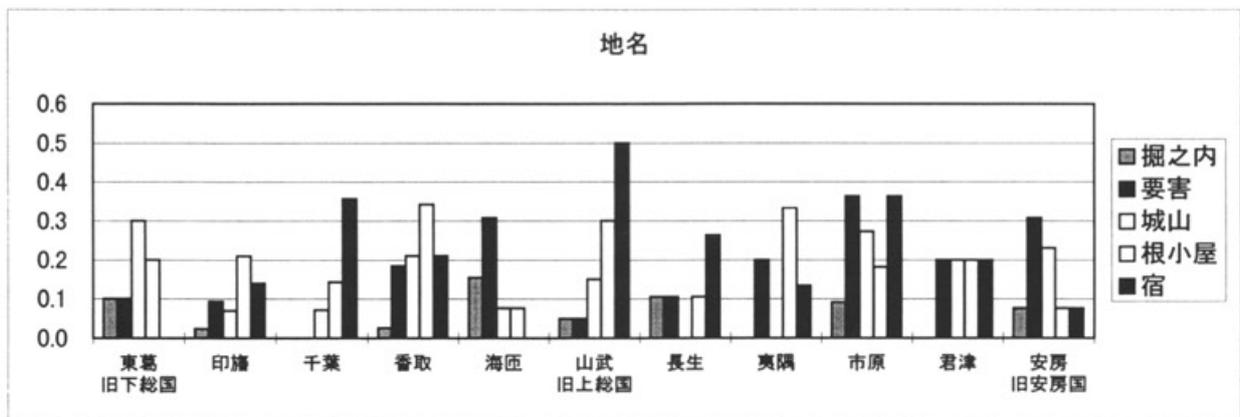
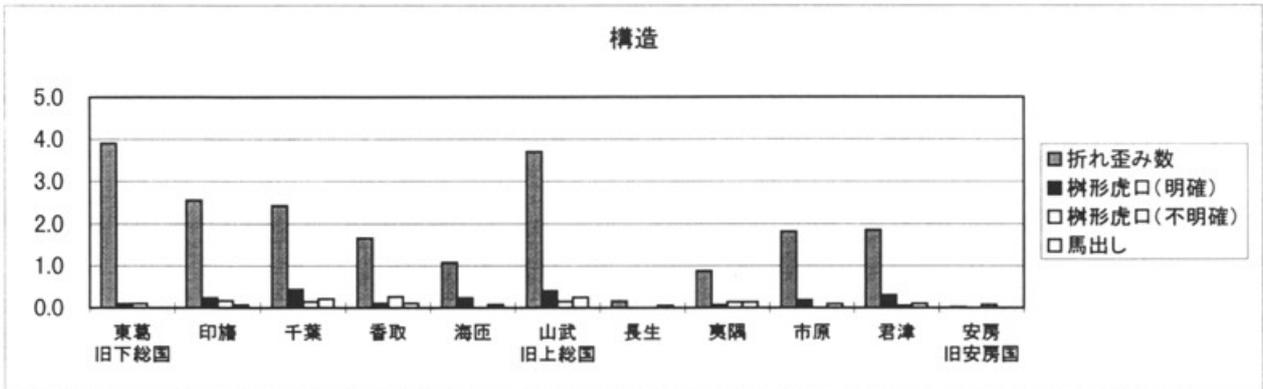
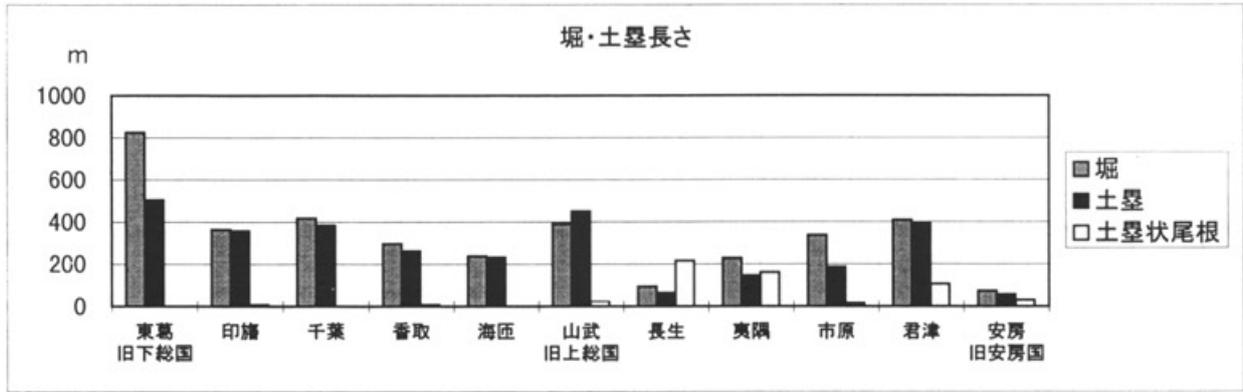
地域	立地							曲輪数			曲輪面積 (㎡)							空堀			土塁			構造			地名					発掘調査遺物時期					城主クラス								
	地形区分			地形内位置				主要	他・腰	合計	主郭	Ⅱ郭	Ⅲ郭	他の主要郭	主要郭面積合計	腰曲輪	外郭部	合計	横堀セント数	堀切数	塹壕数	堀長さ	土塁長さ	土塁状尾根	折れ至み数	樹形虎口(明確)	樹形虎口(不明確)	馬出し	堀之内	要害	城山	根小(古)屋	宿	12c～14c前	14c後～15c前	15c後～16c初	16c前～中	16c後～17c前	17c中～19c	I期	II期	III期	IV期	V期	
	丘陵	台地	低地	先端	内部・奥	先端から奥	比高																																	Ⅰ期	12c～15c前半	15c後半～16c初頭	16c前葉～16c末	16c末～17c初	17c前葉以降
旧下総国	東葛	0.0	1.0	0.0	1.0	0.1	0.0	13	3.2	8	11	2402	3906	10923	43525	25823	5994	46384	54410	1.9	0.3	0.9	824	504	0	3.9	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.3	0.2	0.0	4	3	2	1	1	0	0	10	9	0	0
	印旛	0.0	1.0	0.0	0.9	0.0	0.1	20	2.4	6	9	2762	2391	2513	2062	5662	3150	22881	16061	1.1	0.6	0.6	363	357	7	2.6	0.2	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1	0.2	0.1	2	4	11	6	4	1	4	38	30	3	1
	千葉	0.0	1.0	0.0	0.6	0.4	0.1	17	2.7	3	5	5496	3699	1873	5365	11240	3405	121217	39161	1.1	0.9	0.6	416	382	0	2.4	0.4	0.1	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.4	0	3	6	1	1	2	2	11	7	2	2
	香取	0.1	0.9	0.0	1.0	0.0	0.0	27	2.5	16	18	3785	7618	4197	3299	12231	6167	4845	19673	0.8	1.1	1.4	294	259	7	1.7	0.1	0.3	0.1	0.0	0.2	0.2	0.3	0.2	0	2	5	3	1	2	1	24	22	1	0
	海旛	0.1	0.9	0.0	0.9	0.0	0.1	28	3.2	13	16	3333	2818	4464	6774	10813	6222	22807	22298	0.8	2.6	1.3	236	229	0	1.1	0.2	0.0	0.1	0.2	0.3	0.1	0.1	0.0	0	1	2	1	0	0	2	12	5	0	0
	下総	0.0	1.0	0.0	0.9	0.1	0.0	21	2.8	9	12	3556	4086	4794	12205	13154	4988	43627	30321	1.2	1.1	1.0	427	346	3	2.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	6	13	26	12	7	5	9	95	73	6	3
旧上総国	山武	0.2	0.9	0.0	0.5	0.0	0.6	31	3.3	21	25	2524	5303	2936	8860	20527	8756	14935	22843	1.2	2.1	1.6	391	450	26	3.7	0.4	0.2	0.3	0.1	0.1	0.2	0.3	0.5	0	2	5	1	2	1	2	15	15	1	2
	長生	0.9	0.1	0.0	0.5	0.1	0.4	39	4.2	41	46	962	886	936	2506	3495	8820	0	11851	0.2	6.7	0.9	94	64	215	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.3	0	0	1	1	1	1	0	13	11	0	1
	夷隅	0.7	0.3	0.0	0.5	0.1	0.4	38	5.2	56	61	2833	2431	2802	10703	13238	19444	25250	34752	0.2	8.3	4.1	226	146	160	0.9	0.1	0.1	0.1	0.0	0.2	0.0	0.3	0.1	0	0	4	2	2	1	0	16	13	2	1
	市原	0.5	0.5	0.1	0.9	0.1	0.1	42	3.3	23	26	2526	5289	5998	6845	13705	10457	23400	26289	1.2	1.5	0.9	336	185	15	1.8	0.2	0.0	0.1	0.1	0.4	0.3	0.2	0.4	0	0	2	2	2	0	0	9	9	0	0
	君津	0.7	0.2	0.1	0.6	0.2	0.3	54	5.1	47	52	3204	3436	3907	4762	13080	17729	14291	32265	0.8	6.2	4.2	407	390	107	1.9	0.3	0.1	0.1	0.0	0.2	0.2	0.2	0.2	0	1	4	3	1	2	0	13	18	1	4
	上総	0.6	0.4	0.0	0.6	0.1	0.4	41	4.2	38	42	2410	3469	3316	6735	12809	13041	15575	25600	0.7	5.0	2.3	291	247	105	1.7	0.2	0.1	0.1	0.0	0.2	0.1	0.2	0.3	0	3	16	9	8	5	2	66	66	4	8
旧安房国	安房	0.8	0.0	0.2	0.5	0.5	0.1	78	2.5	45	40	2988	1481	2000	4670	6282	11730	0	16208	0.0	1.9	1.0	73	56	30	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.3	0.2	0.1	0.1	2	2	0	1	2	1	2	7	7	1	0
		平均値																合計値																											



第165図 地域別データグラフ1 (立地他)



第166図 地域別データグラフ2 (曲輪数他)



第167図 地域別データグラフ3 (堀長さ他)

部は見られないが、丘陵の城郭も各曲輪は小規模ながら、集合体として外郭部としての機能を有していた可能性もあろう。

4. 堀について (第4表、第166図)

横堀セット数については、東飾地域に多く、次いで多いのが、山武・市原・印旛・千葉地域である。逆に少ないのは長生・夷隅地域で、安房地域には殆ど無い。

堀切数については、夷隅・長生・君津地域が突出し、東飾・印旛地域が極端に少ない。これは、丘陵の城郭が尾根の堀切を多用するからである。

竪堀数については、夷隅・君津地域が突出している。概念図作成者の見方もあるだろうが、丘陵の城郭の施設として、充実した構造を有する地域として良いであろう。

堀の長さについては、東飾地域が800m余と突出し、印旛・千葉・山武・市原・君津地域が400m前後で土塁の長さとはほぼ一致する。逆に短い地域は長生・安房地域である。堀は、台地では丘陵の様な天然の斜面距離が少ないから長く、丘陵の城郭は短いといえる。なお、長生地域の堀の短さは、数が多いが尾根筋が馬の背状の為、堀切の長さも短くなったものであろう。

5. 土塁について (第4表、第167図)

土塁の長さについては、東飾地域が500m、次いで印旛・千葉・山武・君津地域が400m近く、長生・安房地域が100m前後である。長生・安房地域の丘陵城郭では、堀の長さと同様、比高のある急斜面自体が天然の防御施設となっているためであろう。

土塁状尾根については、長生・夷隅・君津地域に見られるが、他地域にはほとんど見られない。これは、丘陵の馬の背状の尾根を有効に利用したものであろう。

6. 特殊構造について (第4表、第167図)

折れ歪み数については、東飾・山武地域が突出し、次いで印旛・千葉地域、次いで市原・君津・香取地域、次いで海匝・夷隅地域、殆ど見られないのが、長生・安房地域である。台地状のある程度の平場がないと造れないものであり、逆に丘陵城郭では八方に延びる尾根筋による地形の複雑さが、人為的な折り歪み構造を不要なものにしたためではないだろうか。

枡形虎口については、千葉・山武・君津地域に多く、不明確な枡形虎口については、香取地域に若干多い傾向である。前者については、16世紀半ば以降の後北条氏の進出の影響ではないだろうか。また、後者については、香取地域、つまり、大須賀・国分氏の築城意識の表れでないかと考えられる。

7. 地名について (第4表、第167図)

「掘之内」は、低地の居館跡に残る地名とされる。しかし、千葉県内の発掘調査例は少なく、データ表に掲載した地名は、台地や丘陵の城館の下に見られるものも掲載した。よって、地域による傾向は、現時点ではあまり意味がないが、千葉・夷隅・君津地域では殆ど見られないのは、何か意味があるかもしれない。

「要害」は、香取・海匝・夷隅・市原・安房地域にやや多く、千葉には殆ど見られない。

「城山」は、東飾・香取・山武・市原・安房に多く、印旛・千葉・海匝・長生・夷隅地域には殆ど見られない。

「根小（古）屋」は、香取・山武・夷隅地域に多く、長生・安房地域に少ない。他地域はほぼ同様である。

「宿」は、山武地域が突出して多く、次いで千葉・市原・長生地域に多く、少ないのは東飾・海匝・安房地域である。

「根小屋」は、16世紀後半以降の城郭に伴う傾向があるとされ、「宿」は、城下町の萌芽的機能であることが推測されているが、街道筋に伴うもの、またその街道が近世以降のものである可能性も考慮する必要がある。山武地域に宿が突出して多い理由は不明であるが、他は時期的なものを考慮しなければならぬので、次節で改めて検討したい。

第3節 地域、時期、城・城主クラス別特色

本節では、地域毎に①曲輪数、②曲輪面積、③堀の種類、④堀・土塁の長さ、⑤特殊構造の有無、⑥城館関係地名の有無、等について、各城館の最終段階の時期、さらに各段階の城及び城主クラスを分けて、その変化を検討したものである。なお、集計表（第5表）やグラフ（第165図～第173図）の作成に当たっては、データ表（第3表）を元としているが、発展過程を見やすくするために、時期をⅠ期→Ⅱ期→Ⅲ期→Ⅳ期→Ⅴ期に、城及び城主クラスをEクラス→Dクラス→Cクラス→Bクラス→Aクラスという順に並べた。なお、第1節でも触れたが、時期、城・城主クラスについては、その多くが仮定である。また、数値は平均値である。

1. 東葛飾地域（第12図～第19図）

東葛飾地域は破壊された城館跡が多く、概念図や測量図等の資料が少ないので、データとしては少ないことを考慮しなければならない。

(1) 曲輪数

主要郭数は、Ⅱ期Dクラス（金井野城跡）は3、Ⅲ期はDクラス（佐津間城跡 1）→Cクラス（松ヶ崎城跡・箕輪城跡・増尾城跡他 2.3）→Bクラス（小金城跡・手賀城跡 7）と増加する。

腰曲輪数は、Ⅱ期Dクラスは存在しない。Ⅲ期はDクラス（2）→Cクラス（8）→Bクラス（14）の順に増加する。Ⅱ期Dクラスとした例は、金井野城跡のみであるが、東葛飾地域の広大な台地上に占地することから、腰曲輪の代わりに主要郭が3と多く造られている可能性も考えられる。

(2) 曲輪面積

Ⅰ期Dクラスは14,000m²弱、Ⅲ期はDクラス（14,000m²余り）→Cクラス（27,000m²弱）→Bクラス（180,000m²弱）へと増加する。外郭部は、Ⅱ期にはなく、Ⅲ期Dクラス・Cクラスは13,000m²であるが、特にⅢ期Bクラス（小金城跡・手賀城跡）の外郭部は100,000m²近くに突出して広大である。

(3) 堀の種類

横堀のセット数は時期に限らず2～3前後と県内では多く、堀切は殆ど見られない傾向がある。しかし、堀切と豎堀はⅢ期Cクラスで0.5前後と若干見られるようになる。Bクラスにはないが、斜面部の発掘調査によって検出される可能性は高いことが考えられる。

(4) 堀・土塁の長さ

空堀の長さは、Ⅱ期Dクラスで820m、Ⅲ期はDクラス・Cクラスは300m代であるが、Bクラスは2,600mと大幅に増加する。

土塁の長さは、Ⅱ期Dクラス（270m）→Ⅲ期Dクラス（400m）→Cクラス（約460m）→Bクラス（約800m）の順に増加する。

(5) 特殊構造

折り歪み数は、Ⅱ期Dクラスは2.0と低いが、Ⅲ期はやや増加し、Dクラスは4.0、Cクラスは2.5、そしてBクラスは9.0と大幅に増加する。

明確な桁形虎口は、Ⅲ期Cクラスに0.2と僅かに存在する。

不明確な桁形虎口も、Ⅲ期Cクラスに0.2と僅かに存在する。